

たより



ユッカの会会報 第17号 平成17年12月17日(土) 発行
横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民センター12階
かながわボランティアセンター(情報コーナー)内 ユッカの会代表 沼波万里子

息ながき活動を……

沼波 万里子

例年に比べ暖かな年末ですが、日毎に散
ってゆく落ち葉が舗道の上をころがり、吹きだ
まってゆくのを見ますと、師走の風がしみじみ
と身に沁みる昨今でございます。

私も今年は六年間介護してまいりました
夫が他界いたし、ひと頃は五キロほど痩せ
体調をくずしておりましたが、最近ようやく快
復いたし落ち着きをとり戻してまいりました。

この十一月二十四日には、肉親探しの中国
残留孤児五名、その同伴者五名が共
に来日されましたが、やはり以前と異
なり皆様の関心もうすく、何と申しまし
てもあまりにも年月が経ち過ぎておりま
すため、孤児を知る方々の生存もおぼ
つかなく、どれ程の成果があがります
かとても期待出来ない状況でございま
す。

現在日本に定住して共にクリスマス
会などで交流出来ます皆様方は本当

に幸運だったと思わずにいられません。生活
の上ではまだまだ厳しい面がございますが、
ユッカの会の皆様の変わらないご努力のもと
で勉学をつづけておられますご様子を思い
かべますと、何より心うれしく、改めて担当の
方々のご厚情を感謝申し上げます。

散り始めた银杏の葉が、地に落ちようとして
は舞い上がり、折からの夕日に美しく輝く様
を見て、私も元気が出て参りました。

あと数年で九十歳を迎えます今、当会の活
動が息長くつづく事を祈らずにおられません。

六十余年つづいた日本の平和を守
りつつ世界中に戦争のなくなる日の
来る事を心より願っております。

終焉も遠くなき身に散る银杏

舞い上がりまた舞い上がり輝る

(ユッカの会代表)



ご自分のルーツを求めて中国から日本に帰られた方々へ



シュワブ 礼子(藤村 恭子 訳)

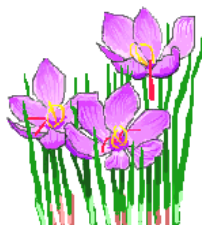
シュワブさんは飯田靖子さんの同級生で、現在アメリカに住んでおられます。以下の投稿はユッカの会ホームページに寄せてくださったもので、ご本人の了解を得てここに掲載します。原文(英文)を藤村恭子さんに翻訳していただきました。

中国に育ち、ご自分のルーツを求めて日本に帰られた方々のことを耳にする毎に、第二次世界大戦中から戦後にかけて過ごし満州(現中国東北地区)のことを思い起こします。

度重なる空襲を逃れて、私達一家は上海を後にし、満州の鳳凰城(現遼寧省鳳城市)という小さな田舎町に疎開しました。1945年5月父が44歳で召集されて8ヶ月後のことでした。

終戦後、その町に住んでいた日本人は、他の地域から避難してきた人々や退役軍人などと共に、捕まって殺される恐れや、無収入で次第に底をついていく生活資源、独身の若い女性に課せられた種々の仕事、兵役に就くために監獄から出されたという略奪し歩く二人のロシア兵など、様々な生活の変化と挑戦に直面しました。生命の危険を感じたり、自分が何らかの手を打たなければ日本に帰れないのではないかと考えた人は町から逃亡しました。

鳳凰城は中国共産党八路軍の管理下にあり、兵士達は規律正しく、お酒と女



は御法度ということでしたから、一般の住民は彼等を恐れる必要はなく、女性も安全だったのは幸いなことでした。

私共の町からの引き揚げは1946年の秋に始まり、私共一家は帰国命令を一番早く受けた家族の一つでした。

引き揚げの42日間の旅は困難で、時として耐えがたいものでした。長時間歩いたり、貨物列車に乗ったり、収容所で何日も生活したり、汚くて不衛生な環境で十分な食物もきれいな水もなく、疲労もひどく、病気になっても薬とてない有様でした。

何人もの人、殊に幼児や高齢者が途上命を失いました。赤ちゃんが病気で栄養失調で亡くなったり、子供が死線を彷徨っているのを目撃しました。山を越えて10マイルの道を氷雨と強風に出会いながら歩いている中に姿を消してしまった人もありました。生き残った私共も栄養不良の状態でした。

終戦を迎えた時充分分別のつく年頃になっていた人は(私は当時14歳でした)戦後の日々を覚えており、それぞれ体験談があるものです。

親が子供を異国に残して帰国するとは、ま

して子供を将来引き取ることが出来るかどうか分からないのにそうするとは、到底考えられないことのように思えます。成長されてから、親が自分を中国人の家庭のもとに里子に出したということを知った時、どんな風にお考えになり、どうお感じになったのでしょうか。多くの親御さんは、子供の命を守る為には他に手立てがないと思われたに違いありません。当時の危険で、予測しがたい状況にあって、他の子供達の面倒を見、保護をしなくてはならない上に荒廃した戦後の日本の将来も定かではなかったことでしょう。

米国で、流産、病気、事故、自殺、殺人などで子供を失くされた親御さんとの社会奉仕の仕事に23年間携っている間に、喪失と悲嘆の経験を親御さんが話されるのを聞きました。ショック、容赦なく襲う別離の苦しみ、悲しみ、亡くなった子供への思慕、絶望、後悔、自責、恥辱、怒りなど限りない苦悩の経験でした。あの時ああしていたら、この時こうしていたら子供はまだ生きていたのではないかと考え、子供に関して下した判断の一つ一つを果てしなく自問していられました。

何よりも、親御さん達は亡くなった子供に対する永久に変わらぬ愛情を示されるのでした。人と話すことによって、殊に他の子供を失くされた方達と話すことによって、親御さんは幾らかの慰めを得ておられました。同様の経験がある人々はお互いに理解し合えますから。

遠く離れた地に子供を他人に託して帰国

せざるを得なかった親御さんの嘆きは決して拭い去ることの出来ないものだったことでしょう。いろいろな点で、そういう方達の経験は、子供を失くされた方達の経験と同じものだったことと思います。いいえ、それ以上に苦痛なものだったかも知れません。

中国での戦後の不安定な生活、子供を置き残さなければならぬと決断した当時の事情、逃亡或いは引き揚げの長旅で耐えた辛苦、いつも心の内に秘めていた嘆きなどについて話す機会が無かった方が多かったことと思います。人は必ずしも他人の悲しみを聞きたがらないものです。あまり心地良いことではありませんから。背中に背負うことが出来た物だけを持って帰国し、家族が生きるために一生懸命働かなくてはならず、その為にご自分の喪失感に絶えず沈んだり、塞ぎ込んだりしてはいられたなかったものの、残してきたお子さんのことは決して頭を離れることがなかったでしょう。

日本人の両親の間に生まれ、親が中国を去る時に置き去りにされたことを知った時、皆さん種々の感情を味わったことでしょう。その感情のいくつかは、恐らく実のご両親が経験されたものと同じだったことと思います。ともあれ、皆さんが遂に日本に帰って来られたのを嬉しく思います。今皆さんは二つの母国を持



っていらっしやいますね。中国で成長なさった間、申し分ない愛情に満ちたご両親と他の家族の方々に恵まれて

いらっしゃったとしても、自分は他の家族の一人として生まれた者だと知られてからは、何か欠けている、物足りないとお感じになったことでしょう。それで、日本に戻っていらっしゃいました。実のご両親はじめ、他のご家族の方々と再会できた方もおられると思います。援助の手をさしのべる大勢の方に囲まれて、ご自分の過去と現在、授かった恩恵、悲しみ、喜び、希望等を話すことがお出来になるようにと願っています。

私の中学、高校時代のクラスメートの何人かが他のボランティアの方々と共に皆さんがご自分を見出し、日本での新しい生活を築いていけるのにお手助けできるのを喜んでいきます。その過程で、皆さんは皆さんの独特な人生経験を通して学んだり、皆さんとの交友を楽しんだりする機会をボランティアの方達に与えていらっしゃるのです。皆さんのお幸せを心から念じております。(原文は英文)

献给那些从中国回归日本寻根的人们

シュワブさんの投稿を、中国からの帰国者のために、員 琳蓉さんと飯田さんに中国文に翻訳していただきました。

当我听到关于那些在中国长大最终回归日本寻根的人的事情后，我的思索回溯到了二战中和战后在满洲(现在的中国东北地区)时的日子。1945年5月也就是当44岁的父亲被征兵后的8个月，逃过频繁的炸弹的威胁，我们一家人离开上海移居到了南满洲的一个叫做凤城市的小乡镇(即现在的辽宁省凤城市)。战争结束后，城镇里的日籍居民们、从其他的地方逃来的日本家族、还有退役军人等大家都面临着许多变迁和挑战，这其中也包括被俘虏和死亡的威胁。

在那里因缺少收入，有限和日趋减少的资源支撑着大家的日常生活，因此各种杂活不得不强加于年轻的单身妇女们的身上。我听说有两个抢夺犯---原俄罗斯士兵从监牢里放出来了，因此一些人逃出了这个城镇，他们觉得自己的生命处于危险之下，担心会有一天再也不能返回日本除非他们自己想方设法。幸运的是，凤城市当时被控于中共八路军，士兵们都很遵守纪律，禁止饮酒和欺侮妇女，他们表示对普通居民不会带来威胁，因此妇女们也很安全。

遣返回国在我们这个镇是从1946年秋天开始的。我们家也是最早一批收到命令的一个。42天的返程既艰难而又难以忍受。经历了很长时间、大家紧紧地挤在货物列车里。我们不得不长期逗留在不卫生的收容设施里。缺乏充足和有营养的食品以及清结水，而且疲乏至极，如果生病也没有药物，这导致多数人不能生还。年幼者和老人最容易遭难。我看到许多婴儿死于疾病和营养不足，还有一些孩子们面临着死亡。有时在冷雨和强风中10英里以上翻山越岭，有些人就轻而易举地丧了命。我们这些幸存者也因为营养不良而伤害了身体。战争结束时(我14岁)和我年龄相仿的人一样，我们已经长大足以记得当时的情景和所发生的每一件事情。

把年幼的孩子留在异国他乡对父母们来说可能是一件难以想象的事情，尤其是他们将来也有可能全然没有希望把自己的孩子认领回来。我常想当你们后来知道了自己的身生父母曾把你们寄养在一个中国家庭，你们会怎么想呢。很多父母一定认为当时如果想确保幼小孩子的生还则别无选择才那样做。而且，在不稳定和不可预知的社会条件下，他们不得不照顾和保护其他稍大一些的孩子。而且在战后经济荒芜的日本，这些孩子的未来也有可能是不可预测的。在美国从事社会服务工作长达23年的我，当听到身为父母的人谈起因为流产，疾病，事故，自杀或者谋杀而失去自己孩子的事情时，他们总是表现出经历了打击，无情的苦痛，悲伤，怀念，失望，悔恨，罪恶，羞耻，悲愤以及更多的感触的样子。父母们也许认为在当时的条件下，做出出乎意料的其他选择，他们的孩子才有可能继续生存下去。可在做出选择之后

的余生之中却又不断地扪心自问---孩子抚养问题的最终决定是否妥当等等。大部分人对于失去的孩子都心寄着永远的爱，总是通过给别人诉说此事已获得自慰，尤其是那些也失去孩子的听众们能够理解他们。

我试想着那些不得不把自己的孩子寄养在遥远的异国他乡的父母们的内心的苦痛，他们的体验一定和那些失去孩子的父母们一样，也许还要残酷。在中国战后不安定的社会条件下，大多数的归来日本父母没有机会讲述他们的故事，即在当时的条件下不得不出决定把年幼的孩子留在中国而只身归国的事儿。于是，在那个艰难的时代，他们顶着逃亡的危险经历了漫长的旅行而返回日本，只得把失子之痛永远地埋在心底。人们不愿意总听别人的悲伤之事，因为那会使对方心情不好。归国父母们带着能带走的东西返回了家园。后来，为了整个家庭的生存，不能终日沉陷于失望和消沉的情绪之中，于是他们不得不拼命努力地工作，可却从来没有忘记留在中国的孩子。

当你们知道了自己的出身曾是一个日本家庭却在父母离开中国时被留在了中国，你们一定会有各种各样复杂的情绪。也许一些想法和你们的父母们当时所考虑的相同。我很高兴你们终于回到了日本。现在你们有两个祖国和两个家庭。成长在中国时，你们应该得到了养父母和其他家庭成员们的爱和祝福吧。可当你们一旦发现自己原本出身于另外一个家庭时，一定会觉得缺少些什么或者会有自己的生活不完整等感觉。于是现在你们回到了日本。你们中的一些人也许已经和自己的亲生父母以及其他家庭成员团聚了。你们的周围有许多支持你们的人，我希望你们能诉说自己的过去和现在的人生、以及你们的祝福、悲伤、喜悦和愿望等。我很高兴在众多志愿者活动协会之中，我高中时代的一些同班同学也积极地参与了帮助你们的无偿活动，他们协助你们在日本努力地发现自我并建立一个新的生活。同时在此过程之中，你们也给了志愿者们一个了解你们独特经历和共享友情的机会。

我衷心祝愿你们生活幸福，身体健康，一切顺利！
礼子 Schwab

私が迎えた終戦



ながしま ようこ
長島 陽子

わたし しゅうせん まえ とし じょがっこう
私は終戦の前の年、女学校
にゆうがく ころちち し
に入学したばかりの頃父の仕
ごと かんけい てんきん ためちゅうごくとう
事の關係で、転勤の為中国東

ほくぶ きゅうまんしゅう ちやうしゆん とうじ しんきやう
北布(旧満州)の長春(当時は新京といった)
うつす
に移り住みました。

しもせき ぶざん あいだ れんらくせん とうじぎやらい
下関と釜山の間の連絡船は、当時魚雷の
きけん みなきゆうめいどうぎ の
危険もあったので、皆救命胴着をつけて乗り
ご ぶじ ぶざん つ
込み、無事に釜山に着くことができました。

ちやうせんほんとう じゆうだん なが れつしや たび
朝鮮半島を縦断する長い列車の旅で、ま
だにほん ほう ゆうせい ころ じやうしや
だ日本の方が優勢の頃とはいえ、乗車して
いるのは殆ど韓国の人達、駅で食べ物をもと
めようとしてもまんいん ことば つう
めも満員だし、言葉も通じないので
くうふく いま きたちやうせん ちゆうごく こつきやう
空腹のまま今の北朝鮮と中国との国境を越
えました。何日かかかったかは思い出せません
が、やっとなんにち つ
と長春に着きました。

しよくりやうなん おそ かうしやう にほん くら
食糧難と恐ろしい空襲がある日本に比べ、
きゆうまんしゆう めぐ おも
旧満州は恵まれていると思いました。でも
にほん ひかく さむ ふゆ むか せき
日本と比較にならない寒い冬を迎えても、石
たん ぶそく つら ふゆ
炭不足でそれは辛い冬でした。

よくとし なつせんきやう おも
翌年の夏戦況が思わしくなくなり、いよいよ
がつ か ばんしやたく ひとびと よどお ある こう
8月14日の晩社宅の人々と夜通し歩いて郊
がい に にほんじん した
外に逃げました。それまで日本人に親しんで
ちゆうごく へいたい ぐんかんがっこう ちか おお
くれた中国の兵隊が軍官学校の近くを通った
ころ きゆう わたしたち ほうほう
頃、急に私達に発砲してきたので、そのときは初
しゆうせん にほん ま おも し
めて終戦となり、日本が負けたのだと思ひ知
らされました。まさかまさかのはいせん
敗戦でした。

わた つか ひと ある つづ よ
綿のように疲れ、リュック一つで歩き続け、夜

なかに雨が降ってきたのを覚えています。その翌日やっと全員無事に社宅に帰り着きました。

終戦後の長春は混乱を極め、ソ連との国境の方から旧日本兵、民間の人、旧開拓団の人々が続々と南下し、小・中学校の校舎はその人達の宿舎になり、生活の場となりました。

私達の社宅のすぐ前は、室町小学校とい、そこも大勢の日本人が寝起きし、やがて発疹チフスその他の病人も多数出ている。又、シベリヤに行ったきり帰って来ない兵士の家族が、覗くようにして探している姿に痛々しい思いをしました。長春に着く迄にも、大人も子供も沢山の犠牲者を出したり、止むを得ず中国人に幼い子を預けてきた人もいたようです。やや落ち着いた頃から日本の舞鶴、下関などに向かって葫蘆島から、船が出るようになり帰国して行きました。

私の家族は、父の仕事の残務整理の為、終戦の翌年迄帰国出来ませんでした。日本人の学校は閉校のままだし、町はソ連に乗っ取られたり、市街戦で勝った共産軍に占領されたり、同じ中国人でも政府軍に乗っ取られたり、その度に紙幣が変わったりで混乱を極めました。

やっと私達も帰国出来る事になり、貨物列車に乗って葫蘆島迄南下して来ました。途中二ヶ所位 収容所に泊まり、荷物検査など受けました。貨物列車の中では、すぐ近くにいた疲れたお母さんの乳房に押しつぶされて、赤ちゃんが亡くなるという悲しいこともありまし

た。やがてDDTを頭からかけられて、やっと連絡船の船底でゆられて下関に着きました。

兄を一人横浜において行き、心配していましたが、親戚の家に無事であり、空襲の为学校は跡形もありませんでしたが、日本も次第に落ち着いて来て、私も以前の学校に復学することができたことは、何よりの喜びでした。(横浜教室・手芸講師)

二宮金次郎のふるさとを訪ねて



星 ノブ

二宮金次郎と言っても知らない人が多いかもしれない。戦前に小学生であった人なら、校庭の隅に、薪を背負って本を読んでいる少年の立像があったことを記憶していると思う。たしか修身の教科書にも載っていたし、こういう小学唱歌もあった。

柴刈り縄ない草鞋をつくり
親の手助け弟を世話し
兄弟仲よく孝行をつくす
手本は二宮金次郎

戦前はほとんど全国の小学校にあったらしい金次郎像が、戦後はいつのまにかなくなてしまった。特に戦争に協力したわけでもないだろうに、どうして急に取られってしまったのだろうか。

今年ことしの秋あき、小田原おだわらボランティア協会きょうかいが企画きかくした「稲穂いなほ実る足柄平野あしがらへいに二宮尊徳にのみやそんとくの史蹟しせきを訪ねて」というハイキングに参加して金次郎きんじろうの故郷こきょうを訪ねることができた。

神奈川県中郡かながわけんなかぐんに二宮町にのみやまちというところがあるので、そこが金次郎きんじろうの故郷こきょうかとなんとなく思っていたが、実は小田原市栢山おだわらしかやまというところだった。小田急線おだきゅうせんに栢山かやまという駅えきがあり、その駅前集合えきまえしゅうごうである。

駅前えきまえの住宅地じゅうたくちをぬけるとすぐ田園風景でんえんふうけいがひらけて、足柄平野あしがらへいの一面いちめんの黄金おうごんの波なみであった。はるか西方せいほうに箱根はこねの山々やまやまが連なつらって見え、富士山ふじさんも見える。

最初さいしょに訪ねた桜井小学校さくらいしょうがっこう、報徳小学校ほうとくしょうがっこうという二校にこうには金次郎少年きんじろうしょうねんの像ぞうがあった。さすが地元じもとだけあってこの地区ちくには全部ぜんぶで十一体の金次郎像きんじろうぞうがあるという。そのうちいくつかを見て廻まわった。個人こじんの家の庭いえにわにもあった。

金次郎きんじろうの生家せいかけはこの栢山地区かやまちくで比較的ひかくてきゆう裕福ふくのうかな農家きんじろうであったようだが、金次郎五歳ごさいのとき、酒匂川さかわがわが氾濫はんらんして田畑たはたは冠水かんすいし、一面いちめんの河原かわらとななってしまった。金次郎きんじろうは幼いときから父母ふぼを助けてよく働はたらいた。「柴刈りしばか縄なわないわらじつくり」という少年時代しょうねんじだいを過すぎした。学問がくもん好きな父親ちちおやの影響えいぎょうで金次郎きんじろうも書しょを読よんだ。やまいの山しんに行かって柴せを刈おり、それを背負いって家いえに帰かえる。徒歩とほによる長い道ながみちのりは金次郎きんじろうの絶好ぜっこうの勉強べんきょうの時間じかんであった。彼かれが読よんだのは論語ろんご、大学だいがくなどという儒学じゆがくの本ほんである。速読そくどく、多読たどくはできない。一字一句理解いちじいっくりかいし、暗記あんきし、思索しさくす

る。わからないところがあるとき、ふところから本ほんを取り出してたしかめたのだろう。

十四歳じゅうよんさいのとき父親ちちおやが病死びよしする。そして二年にねん後に母親ははおやがなくななった。金次郎きんじろうは二人ふたりの弟おとうとを守りながら独力どくりきで生活せいかつしようと思おもったが、また酒匂川さかわがわが氾濫はんらんし、田畑たはたも冠水かんすいして住めなくななってしまった。やむなく金次郎きんじろうは父方ちちかたの叔父おじのもとへ、弟おとうとたちは母方ははかたの叔父おじのもとへ身を寄よせることにななった。伯父おじは「百姓ひやくしやうに学問がくもんはいらかんがない」という考ひとえの人ひとだった。この伯父おじのもとでしっかはたらり働むらなみ、また、村名主むらなぬしの家いえに奉公ほうこうしたりして、二十歳はたちにななったとき、廃屋はいおくとななっていた自分じぶんの家いえを修理しゅうりし、弟おとうとたちを引ひきとって独立どくりつした。

稲田いなだの中なかを縦横じゅうおうに巡めぐって金次郎きんじろうの史蹟しせきを訪ねた。見事みごとな水路すいろが町中まちなかから田園地帯でんえんちたいに向むかって幾筋いくすじも真まっすぐのに伸じようりゆうびている。上流じようりゆうに堰せきを設もうけて酒匂川さかわがわの水みずを引ひいた水路すいろには鯉こいが泳およいでいたりして、まるで城下町じょうかまちのようだ。金次郎きんじろうが行おこなった治水工事ちすいこうじの跡あとも残のこっている。この工事こうじによって二毛作にもうさくも可能かのうにななったという。昔むかしからの米どころこめなのだ。

もう刈り入れのすんだ早稲わせの田たもあって、粃殻もみがらを焼く煙やけむりがあちこちにただよっている。桜井小学さくらいしょうがっこう校こうも報徳小学校ほうとくしょうがっこうも実習田じっしゅうでんをももって、五年生ごねんせいが植うえたといいうもち米こめが実みのっていた。古代米こだいまいの黒米くろこめも実みのっている。収穫祭しゅうかくさいには餅もちをついて全校ぜんこうで祝いわうといいう。



尊徳記念館(「尊徳」は金次郎の諱)で昼食となった。記念館には展示室があって、金次郎の生涯や行跡を知ることができる。観光バスで訪れた一行もあった。展示室前のロビーには地元の小学生が金次郎について研究したものが展示されていた。金次郎の生涯を年表にまとめたものや、いろはかるたにしたものもあった。生徒たちの作った草鞋がたくさんあったが、とても履けそうにない。金次郎は苦笑していることだろう。

記念館に隣接して生家が移築されている。江戸時代の中流農家の典型的な間取りの家であるという。生家の前に、成人した金次郎の等身大の銅像が立っている。身長182cm、体重94キロ、足の大きき28cmという立派な体格である。容貌魁偉、小刀ながら脇差しをさし、きりっと引きしまったいでたち、「回村の像」と銘がついているが、今にも足を踏み出しそうな頼もしい姿である。

金次郎は31歳のとき、小田原藩家老服部家の財政建て直しを依頼され、五年間と期間を限り見事に成功させた。その手腕を見込まれて、藩命により藩の分家上野国桜町領(現在の栃木県今市市)の財政再建をすることになる。金次郎は苦勞して復興させた田畑も家もすべて人手に渡し、妻子を連れて桜町に移住する。以来数々の改革をなしとげ、その地でなくなり、栢山に帰ることはなかった。

身分制度の厳しい江戸時代に一介の農民がどうして武士の家の財政改革などできよう

か、と誰だって思うだろう。金次郎は26歳のときから三年間、服部家で中間奉公をしたことがあった。金次郎は農民の生活だけでなく、もっと広い世の中を見たかったのではないかと思う。この三年間の実績が服部家当主の眼にとまった。金次郎は見込まれたのである。当主も見る眼があったということだろう。金次郎は固辞したが、先方の意思も固かった。金次郎は独特のやり方で改革をすすめた。

今まで金次郎と聞けば、儉約・努力の人、封建的でなんとなく古くさいと敬遠していた。しかし、改革の様子を見ると、この人は創意工夫の人であり、あるときは謙虚に、あるときは果敢に、誠心誠意に事にあたり、何よりも私利私欲のない人という姿が浮かんで来るのである。この確固たる信念は少年時代からの学問と労働から培われたものだと思う。

金次郎は求められて次々と改革の仕事をしたが、その改革をすすめるにあたり、村内各地を廻って、村人と納得いくまで話し合ったという。「回村の像」はその姿をうつしたもののだろう。江戸時代末期のころは幕府も諸藩ものきなみ財政が逼迫していた。ちょうど現在の日本のように中央も地方も借金だらけだった。金次郎は忙しかった。

午後は酒匂川の堤を散策する。土手の上は「史蹟めぐりコース」となっていて、ここにも金次郎の足跡がいくつも残っている。富士山に源を發し、



さがみわん そそ かわ なんかい ほんらん さいがい
相模湾に注ぐこの川は、何回も氾濫して災害
をもたらしした。いまはしっかりと堤防が築かれて
いる。川は広い川原の中ほどをかかなりの速さ
で流れている。釣人の姿も見える。穂を出し
たばかりのすすきがかわかぜ ゆ した
くなつたグループの人達と雑談を交わしながらのんびり歩いた。

さいご きんじろう はか ぜんえいじ もう
最後は金次郎の墓のある善栄寺に詣でる。
この寺は1215年、巴御前の開基となっている。
きんじろう さい かやまむら はな いまいち
金次郎は37歳のとき栢山村を離れて今市に
うつり、その地でなくなった。墓もそこにある。
おとう いはつ は かやま も かえ せんぞ
弟が遺髪と歯を栢山に持ち帰って、先祖か
らの墓のある善栄寺に葬ったという。「葬るに
ぶん こ なか ゆいごん きんじろう
分を越える勿れ」と遺言したという金次郎のこ
とだから、二つも墓はいらないというかもしれ
ない。しかし、思い出多いふるさとにも墓があ
った方がいいし、金次郎も内心は嬉しく思っ
ていることだろう。(横浜教室・ボランティア)

じょ み かのじょ だい
女を見つめていた。彼女は当時20代そこそ
こであったのだろう。げんざい かのじょ にほんご
現在の彼女は、日本語
ペラペラで、その上お店の中心的存在……。
わか ひと つか ふうかく かん
若い人を使って風格まで感じられる。

「それから間もなく就職しました。お店の主
じん はじ きゆうりょう ほか まんえん わたし
人が初めての給料の他に、1万円を私にく
れたのです。何、これって思いましたよ。翌月
にはその1万円は引いてあった。ないのです。
さっぱり判らない」

その話を聞きながら私は思った。それは
きつと“御祝儀”だったにちがいないと。

がいくじん わか むすめ いっしょうけんめい
外国人のウラ若い娘さんが、一生懸命
にほんご べんきょう しゅうしよく で き ごしゅじん
日本語を勉強して就職が出来た。御主人の
おいわ きも まんえん
御祝いの気持ちとしての1万円であったのだ
らうと。

たまたまその時は時間がなく、私の思いも、
はなし つづ かのじょ かた で き
話の続きを彼女と語ることも出来なかった。

しかし、彼女の云いたいことは判るような気
がした。日本人なら知っていて当然のような
ふうしゅう かんが がた わか たず
風習や考え方が、さっぱり判らない。訊ねて
もはっきりした答えは返ってこないまま、とき
す 過ぎていってしまう。残るのは日本人との距
りかん ことば かべ
離感……。言葉だけでない壁にぶつかる。

それは 私達が異国で同じように感じる事
なのだろう。その国独特の習慣、考え方、長
い歴史を通じての価値観といったもの……。

どの国の人も「あたりまえ」と思って生活し
ている様々な事は、その国特有のものなのだ
らう。異国に定住し、生活し、仕事を続けて

ざっかん 雑感

つむら そのえ
津村 園江



「20年も前のことですけどー」

りゅうちやう にほんご ちゆうごくじん かのじょ かた はじ
流暢な日本語で、中国人の彼女は語り始めた。
「日本語が出来ないと、この国では生きられま
せんから。TVを見ながら必死で日本語を覚
ええました」
「先生について習わなかったんですか？」
「いいえ、TVを見て、聞いて、独りで勉強しま
した」彼女は明るく笑った。

なん すばること わたし かの
何と素晴らしい事か！ と私はまぶしく彼

ひとびと ころろ かよ い すば
人々と心を通わせて生きることは、素晴らしく
も困難な一大事業……と、しみじみ感じた事
である。(戸塚教室・ボランティア)

素顔のヒューストン

めぐりや ゆりこ
廻谷 百合子

わたし しゅじん てんきん とまな
私は主人の転勤に伴い

ヒューストンで生活しました。

しゅじん ねん いじょうたんしん ふにん
主人は2年以上単身赴任を

していましたので、私は1年足らずのヒュース
トン生活でした。



にほん しゅつぱつ ねん がついつか
日本を出発したのは2003年1月5日でした。

こんかい どめ たいざい どめ
今回は2度目のアメリカ滞在です。1度目はニ
ューヨークでした。ニューYork滞在のときは、
ニューYork州の隣のコネチカット州で生活
しましたが、今回はブッシュ大統領の出身地、
テキサス州です。

しゅつぱつまえ ところ
出発前にヒューストンとはどんな所なのか
知りたくて、アメリカのガイドブックを読んでみ
ましたが観光地ではないということでしょうか、
たった3ページ位の紹介でした。紹介の主な
場所は宇宙ステーション、NASAでした。ま
た、気候に関しては、ヒューストンの気候は一
年中暑く、夏の気温は37~8度位と高く、年
間を通じて冷房が必要とのことでした。

ニューYorkとはまったく違うアメリカ、どん
なところなのかと期待と不安が入り混じってい
た様に思います。

さいしょ いんしやう ふゆ きせつ
最初の印象は、冬の季節があるということ

きぎ は お ひつよう さむ
でした。木々も葉を落としコートが必要な寒い
日も数日ありました。しかし、ヒューストンに長
ねん す ひとびと すうねん ぜんたいてき き
年住んでいる人々は、ここ数年、全体的に気
おん ひく よう はな
温が低くなっている様ですと話していました。
すうねんまえほんとうあつ なつば か もの い
数年前までは本当に暑く、夏場、買い物に行
と き じさん にく
く時はクーラーボックスを持参して、肉などを
か す
買ったなら直ぐにクーラーボックスに入れるとい
うような話を聞きました。でも私の経験はた
はなし き わたし けいけん はた
った一度の夏でしたが、地球環境の変化が
いちど なつ ちきゅうかんきやう へんか
原因なのか、気が狂うほど暑く耐え難いという
げんいん き くる あつ た がた
原因なのか、気が狂うほど暑く耐え難いという
かんじはありませんでした。しかし家の中は全
かんれいぼう あつ につちやう そと で せいかつ
館冷房、暑い日中は外に出ないという生活
ですから苦しくなかったのかもしれませんが。ま
いっぽう だんぼう ひ すうじつ
た一方で、暖房をする日は数日でした。

いちねん とお こうおん とちがら あさ はや
しかし一年を通して高温の土地柄、朝は早く、
やがて あそ ごぜんちやう しゅりやう
ゴルフなど野外の遊びは午前中に終了です。

わたし
私がやはりここはアメリカだと感じた点は、
ひろ い
広いという事でした。なにしろ車がなくて移
どう
動ができない土地柄です。道幅が広いのは
とうぜん ちやうしゃじやう
当然ですが、スーパーマーケットや駐車場
ひろ おどろ ちやうしゃじやう くるま と
の広いこと、驚きです。駐車場に車を止め
るとき めじろし つ
る時、目印を付けておくことにはしてしま
が、しばしば車の位置が分からなくなり、慌て
たものです。巨大なスーパーマーケットの中
には平日は買い物客も少なく、日本のような
かつき おも
活気はないように思います。

ヒューストンのスーパーマーケットに“すし”
(まもの み)を見つけたときには驚きま
した。やはり今アメリカは健康志向なのでしょ
う。約15年前にニューYorkで生活していた時

は、醤油はありましたが巻き寿司(カリフォルニアロール)、いなり寿司などはスーパーマーケットにはありませんでした。

ヒューストンのそのスーパーマーケットではアジア人が寿司を作っていました。どんな味か知りたくて買って見ましたが、まあまあ美味しかった様に思います。贅沢は言えません。

ヒューストンのスーパーマーケットで不思議に思ったことがありました。野菜、肉、その他色々なものに値段が二つ書いてあることでした。レジで支払い、レシートを見ると、高い値段の方で計算されていました。主婦の血が騒ぎ、何故なの？と不思議に思いました。次に買い物に行ったとき、店員さんに聞いてみました。「なぜ二つ値段が付いているのか」「私も安いほうの価格で買いたい」と聞いたところ、この地域に住んでいると証明できればカードを発行してくれること、支払うとき、そのカードを見せればいつも安いほうの値段で買い物ができると教えてくれました。私は早速そのカードを作り、以後、安い値段でショッピングをした事は当然です。但し、どちらの値段が正しいのか未だに分かりません。

一年足らずでしたが、アメリカ人のお付き合いも多々あり、素顔のヒューストンに触れ、またニューヨークとはまったく違うアメリカを体験できたことは貴重な体験でした。(横浜教習所・ボランティア)

友人、中国人、日本人



加納 正三

“さあ、加納さん、中日友好、中日友好！今日はXXさんを紹介するから、ゲームして！”

と、元解放軍で空軍の教官だった揚さんは私に声をかけます。朝の四川省綿陽の公園にあるテニスコートは熟年の男女で一杯。彼らと毎朝テニスを楽しんでいます。最近、年に3回ほど中国に行き、北京と綿陽を訪れ、友だちに会うのが、私の大きな楽しみの一つになっています。

今から10年ほど前、まだ仕事でシンガポールに駐在していた時、単身赴任で仕事も厳しく、余り気が晴れない日が続いていました。その頃ふとしたことでテニスを通して華人の仲間ができました。福建系のタンさん、広東系のケルヴィン、海南系のプアさん。今でも年に一度はシンガポールへ行って、テニスで汗を流し、帰りには夜遅くまで一杯やりながらあれこれ話をし、実に楽しいひと時を過ごしています。彼らを通じて中国に興味を持ち、その後中国

語の勉強を始めました。シンガポールでは英語が通常使われるので中国語を使うことはありませんでしたが。

そして退職、何かこの時の彼らの親切が心に残り、ボランティア活動を少ししてみようと考え、6年ほど前、ユッカの会のお世話にな



りました。日本語を教えると言うよりも、みんなと話をし、夫々の考え方を話し合ったり、日常の事柄を話したりして、私自身も色々教えてもらう事が多く、楽しく時間を過ごさせてもらっています。

このごろ日本と中国の関係が今ひとつの感。政治のせい、マスコミのせい、嫌中嫌日の人も確かに増えているかもしれません。しかし少なくとも私に関する限り、この5、6年中国へよく行くようになりましたが、偶然なのか当然なのか、日本人が嫌いな人に一度も会った事はありません。まあ我々一人一人のできることは限られていますが、隣人と角突き合わせていても何も得る事はないし、せめて周りの人に夫々の国の“普通の人”の考え方を分かってもらおうよう努力したいものです。(横浜教室・ボランティア)

ローイ・クラトン祭り



野田 スカンヤ
タイの伝統行事である“ローイ・クラトン”について紹介したいと思います。

ローイ・クラトンはタイの伝統行事です。“ローイ”は流すという意味で、“クラトン”というのは、もともとバナナの葉で作った入れ物のことですが、このお祭りでは蓮の花等をかたどって作った灯籠のことを指します。紙やバナナの葉で作られた灯籠に線香、ろうそく、花等を入れて水に流すので、日本語では「灯籠

流し」と訳されています。以前はクラトンには発泡スチロールがよく使われていましたが、最近では環境保護を考え、一般的にはバナナの葉が使用されることが多くなりました。

このローイ・クラトンは陰暦12月の満月の夜に行われます。毎年だいたい10月の下旬から11月の中旬にかけての頃です。タイの行事や祭りはほとんど陰暦に基づいて行われますから、日本のように毎年決まった日にお祭りがあるというわけではありません。

また、タイのローイ・クラトン祭りは日本のお盆に行く灯籠流しと同じと思われていますが、実際の意味は違います。

ローイ・クラトンは一般に川の女神に感謝を捧げるために行うのだと言われていますが、起源についてはいろいろな説があります。現在、一般的に言われているのは、スコータイ王の妻であるナーン・ノッパマートが、王に献上するため蓮の形や様々な形をした灯籠を作り出したという説です。灯籠は王の指示によって川に流されました。“タオスリチュラック法典”と呼ばれる本の中に、王は「今日から以後、蓮の形の灯籠は満月の月光に満たされる11月の良き日に永遠に作られなければ

ばならない」と話したと記されています。

クラトンの流し方ですが、普通はろうそく1本、線香3本、それに花を灯籠に立てて川



うんが いけなど なが た
や運河、あるいは池等に流します。その他、コ
インや札(お金)を入れる人も多いのですが、
これは富がもたらされますようにとの願いから
です。線香とろうそくに火をつけてそれぞれの
ねがごと あと みず なが
願い事をした後、クラトン水を流すわけです
が、この時ろうそくの火がいつまでも消えな
ねがごと しん
ければ、願い事がかなうと信じられています。

げんざい ちほう
現在、ローイ・クラトンはほとんどの地方で
おこな とく ゆうめい
行われますが、特に有名なのはチェンマイ、
スコタイ、アユタヤ等です。

わたし にほん き ねん じ
私は日本に来て4年になりますが、この時
き きこく まいねん じ
期に帰国にしたことはありません。毎年この時
き なるとうろう じぶん つく
期になるとクラトン(灯笼)を自分で作ったこと
をおも だ にほん
を思い出します。日本でもローイ・クラトンを
おこな たら き らい
行っているお寺があると聞いているので、来
ねん ぜ ひさんか おも よこはま
年は是非参加したいと思っています。(横浜
きょうしつ がくしゅうしゃ
教室・学習者)

ふるさと おも 故郷への想い

りょう ちゆう
廖 忠

きょう うえの えき ぶんしやう
今日『上野駅』という文章

よ ふるさと おも
を読んで、故郷のことを思い

だ なか たんか の ふる
出した。その中には短歌が載っている。「故
さと
郷のなまりなつかし、ていしゃば ひと なか
それを聞きに行く。確かに、誰でも故郷に愛
き い たし だれ ふるさと あい
着を持っているようだ。そして方言は、故郷
ちやく も ほうげん ふるさと
そのものではないだろうか。

わたし じゅうさい か ぞく ちちおや ふるさと
私は十歳のころ家族とともに父親の故郷
うつ ふるさと みなみ ほう
へ移った。父の故郷は南の方だったから、



みどり おお あたた みずうみ
緑が多かったし、暖かかったし、湖がきれ
いだった。しかし、おなくに ことば おな
はなかった。笑わないではいられないほどお
かしな発音だった。幸い、わたしが きょうつう ごと
共通語を使っていたから、その土地の人々は分か
つていたそうだ。相手はできるだけ共通語で私
たに話をするようにしてくれた。学校でもそ
うだった。半年ほど経つと、ほうげん わ
方言が分かるよう
になって、ともだち きょうつう ごと わたし
友達がたくさんできて、毎日遊ん
でばかりいた。

ほうか ごと いっしょ すなはま い
放課後、みんな一緒に砂浜に行くことにな
った。夕日が西に輝いて、みんなは思い切り
はし と は わら すなあそ
走ったり、飛び跳ねたり、笑ったり、砂遊びし
たりした。つか すなはま よこ
疲れたら、そのまま砂浜に横にな
て、そら さいうん ようす なが にし そら あか
空の彩雲の様子を眺める。西の空が赤く
なり、夕焼けがもえるように美しかった。色とり
どりの日差しは湖面に映って、湖水も輝いて
きた。そして一瞬間、たいよう き
太陽は消えしま
った。「暗くなったから帰ろう」と誰かが言い出し、
みんなは すな たら お いっしょ かせ
砂を払い落として、一緒に帰った。

ちい まち うつく ゆう
小さい町なのに、美しいところだった。夕
や 焼けがすごくきれいだったし、みずうみ すな
湖の砂がや
わらかかったし、仲間と一緒に遊ぶのは楽し
いことだった。

この土地の暮らしは前の大都市とぜんぜん
ちが ふる ふん い き のこ さんごく じだい
違って、古い雰囲気が残っていた。三国時代
に建てられた岳陽楼をめぐっては、さまざま
でんせつ つた すなはま お
な伝説が伝わっている。砂浜に置かれたまま
の巨大な錨は人々にいろいろなものを連想
させる。錨は、はさみのような形で砂の上に

みつ なら よこ おおむかし
三つ並んで横たわっている。大昔はどのよう
につく
に作られたのか、どうやってここに運ばれた
のか、想像をかき立てられる。現在の 錨とは
まった かたち ちが
全く形が違うからだ。

みずうみ た こじょう ふね すす
湖のほとりに立ち、湖上に船がゆっくり進
み、人がのんびり釣りをしているのを見ると、
ひと つ み
時間も留まっているかのようだった。ある夏の
よる そら み あ ほし かがや
夜、空を見上げると星が輝いていて、それ
は満天に咲く白い梨の花のように見えた。そ
の情景に酔っていた私はその場でずっと見
つめていたかったので、夜遅くなるまで帰ら
たくなかった。自然の美景に感動した。

いちばんおもしろ
でも一番面白かったのはある夏の思い出
だ。南の方は夏になると、暑くてたまらな
かた。みな ほう なつ あつ
った。二十年前には、電気製品などあまりな
かったから、皆が色々な工夫をした。夜にな
って、外で寝ることになった。涼しい風が吹く、
ひろ じ か せい たけ つく
広いところに自家製の竹で作られたベッドを
並べて、話しながら、暑い夏をすごしていた。

ころ いちばんたの おも き とも
その頃、一番楽しかったことは思い切り友
だち おに
達と鬼ごっこしたり、トランプしたりしたことだ。
ときどき おとな たの はなし
時々、大人に頼んで、お話をしてもらった。
とく おそ はなし き とき みなだま きん
特に恐ろしい話を聞いた時は皆黙って、緊
張して、まるで暗やみに鬼がいるようだった。
だれもが怖さで動けなかった。でも最後は必
ず円満な結末になった。そうでなければ、
みな ゆる かなら みな わら
皆は許さなかった。必ず皆を笑わせてから
その話を終わらせた。お話が終わってアイ
スを一本貰った時は最高だった。

わたし いまくに はな い こく く
私は今国を離れて、異国に暮らしている。

こころ おく ふるさと けつ わす おも
心の奥で故郷のことを決して忘れない。思い
だ たび しあわ かん いま しあわ せいかつ
出す度に幸せを感じる。今も幸せな生活を
おく
送っているけど、あの無邪気な少女時代、単
純で素直な生活をたびたび懐かしく思い出
す。(横浜教室・学習者)

蘇州の紹介



焦程敏

そしゅう ちゆうごく なんぶ ゆうめい
蘇州は中国の南部の有名な
かんこうとし いぜん そしゅう ふる
観光都市です。以前蘇州は古
くて、小さいけれど美しい町で

した。春秋時代の呉の都でした。でも、いま
は新しくてにぎやかです。いろいろ大きなビ
ルやホテルがありますよ。

ちゆうごく わたし す そしゅう じ
中国で私の住んでいたのは蘇州から2時
かん まち
間ぐらいの町です。だからよく蘇州へ旅行に
いきました。蘇州には有名な園林(公園)が
たくさんあります。中でも虎丘や西園が静か
で美しいです。

きんこう かんざん じ めいしやう こせき おお
近郊には寒山寺などの名勝や古跡が多く、
おもしろい場所があります。土曜日と日曜日
には、おおぜいの人が蘇州園林へ遊びに行
って、写真を撮ったり、風景を見たりします。
だいにんき
大人気ですよ。

そしゅう ゆうめい きぬおりもの ししゅう
蘇州の有名なおみやげは、絹織物、刺繍、
さいくもの ちゆうごくじん がいこくじん
細工物などです。中国人でも外国人でもこの
おみやげが大好きです。私にとって、蘇州
りようこう だいす わたし そしゅう
で旅行したことはいい思い出ですよ。(横浜
きやうしつ がくしゅうしや
教室・学習者)

わたし ふるさと
私の故郷

曹 沛



私が生まれたのは、貴州の小さな町です。貴州がある場所は、中国の西南で、雲南、四川、広西、湖南と隣り合っています。内陸にあり、遠くて辺鄙なので、経済があまり発達していません。そして貴州はあまり人に知られていません。でも旅行にはいい所です。高い山だけでなく、きれいな川もあります、きれいな景色だけでなく、少数民族の風情もあります。



貴州は高原にあり、平均海拔は1,500メートルで、一番高いところは、2,900メートルです。山はとても高

いので、麓から山頂まで気候もさまざま、いろいろな植物があります。山の数も多く、また、山の中にはたくさんの町があります。昔交通は山を巻くような道路でした。これは貴州の独特なものです。山に沿って造られた道路のヘリが万丈の断崖なので、とても怖いと感じました。でも、今は高速道路があります。

貴州には、いろいろな川や滝や湖があります。きれいなもの、静かなもの、壮観なものがあります。世界で第三の滝があります。名前は、中国語で“黄果树瀑布”と言います。この滝の高さは77.8メートルで、幅は101メートル

黄果树瀑布



です。晴れば滝の水面に、たくさんの虹が出ます。この滝を中心に、たくさんの遊ぶところが建てられました。

他にも名所はたくさんあります。例えば、赤水の竹海、国家公園“梵净山”、鍾乳洞公園

梵净山滝



“竜宮”、自然景色“香子沟”など、いろいろあり、全部を列挙できません。

貴州に住んでいる少数民族は多いです。中でも“苗族”と“侗族”は代表的な少数民族



苗族の頭に飾り



侗族の服と頭の飾り



侗族の木塔

ぞく みょうぞく ふく あたま かざ
族です。“苗族”の服や頭に飾るものはきれ
いだし、“侗族”の木塔には特徴があります。
“侗族”の木塔は、建てるのに釘を全然使
いません。毎年少数民族のいろいろな祭りがあ
って、とても面白いです。

これが私の故郷です。あなたが貴州へい
らっしゃるのなら、私に連絡してください。き
れいで、有名で、面白いところを紹介してあ
げますよ。(横浜教室・学習者)

日本の便利な生活



りん しゅくえん
林 淑娟

にほん せいかつ べんり
日本の生活は便利な事が多
いと思います。例えば、交通や
いろいろ みせ などなど
色々な店のサービス等々...

こうつう きかん はったつ せかい せま
交通機関の発達は、すっかり世界を狭くし
ました。国内の交通、輸送システムについて、
にほん りくじょう こうつうせいび まな めん
日本の陸上の交通整備には学ぶべき面があ
ります。

いま にほん ちゆうこうそくてつどうもう しんかんせん せい
今、日本では超高速鉄道網「新幹線」が整
備されました。今のところ、「新幹線」の大事
故は発生していませんが、地震国の日本で
は万一のことを考慮し、自働列車安全制御
装置(ATS)の設置などを図っています。

また、高速道路では、たびたび交通事故な

どの大惨事が発生しています。事故が起こ
った時、どうやってそれを走行中の他の車に
すみ れんらく にじさんじ じこ ふせ
速やかに連絡し、二次、三次の事故を防ぐか
くふう
工夫をしています。

こうつうもう しょうひ せいかつ たいへんべんり
交通網のほかに、消費生活も大変便利に
なっています。コンビニは24時間営業の店
です。日常生活に必要な品物をあつかう小
型スーパーストアで、今若者の夜ふかしが一
般化するにつれて人気が高まってきました。
いっばん みせ し じかん やす ひ
一般の店の閉まっている時間や休みの日
も買い物ができます。また、お店の場所も駅
前や住宅地の近くにあるのも便利です。電
話やガス料金の支払いや宅配便で荷物を送
ることができるなど、忙しい現代人の要望を
満たしてくれる店だと言えるでしょう。

だから日本の生活は本当に便利だなあと
おも よこはまきょうしつ がくしゅうしゃ
思います。(横浜教室・学習者)

日本の秋



なかい れいこ
中井 玲子

ひとびと あか ひざ なか
人々は明るい日射しの中、た
くさんの花が咲く春を好むよう
ですが、わたし あき ほう す
私、私は秋の方が好きで

す。特に秋の紅葉が好きです。

にほん あき ほんとう うつく あきわたし やま
日本の秋は本当に美しい。この秋私は山
梨県の本栖湖に行きました。紅葉に太陽が照
り、澄んだ湖水に映る美しさ、富士山には真
白に雪が積り、ゴツゴツした山頂はきらきら輝
いています。碧空には白雲が悠然と浮かび、

起伏の多い連山が見えます。湖水にはさざ波が立ち、紅、黄、緑の木々の葉が交りあって作り出す景色はまさに一幅の美しい絵のようです。紅葉の輝きはいつそ目を奪います。

湖水と山と空と紅葉！ なんと美しいでしょう！（横浜地域教室・学習者）

日本の印象

鄭 楊 濤



私は鄭ともうします。二年まえに、中国の北京からきました。

初めて日本に来た時は、日本語がぜんぜん分からなかったもので、とても不便でした。あとは、日本語のボランティアの先生といっしょに勉強しましたから、だんだん、慣れてきました。ボランティアの先生はみんな親切で、勉強すれば、楽しいです。

日本の食べ物はおいしいですが、たかいです。一番好きな食べ物は、刺身です。とてもおいしいです。

日本は、自然とか、空気とか、水とか、本当にいいです。環境汚染がありません。だから日本は、好きです。（横浜教室・学習者）

ユッカの会・地域教室の

みなさま
皆様へ

安西 由里子



お元気ですか？ 私はあの嵐の日の手芸教室の皆様と初めてお会いし、一緒に「ヒヨコちゃん」を編んだ安西由

里子です。そして皆様とすぐに仲良しになって、とても嬉しかったです。作品はお部屋に飾ってありますか？ それとも「あ！石鹸がなくなっちゃったから、これちょっと使おう」と外側だけになってしまった、やせっぽちの「ヒヨコちゃん」になってしまったでしょうか？ 私もよくこんなことやっちゃうんですよ。

私は学生の頃から手芸や、お料理が大好きで、勉強しないで手袋や靴下を編んだり、お人形を作ったり、お料理も終戦後で材料のない時代に育ったから、いろいろ工夫してお菓子なども作りました。皆さんもお料理、お上手なんでしょう？ 今度は是非中華料理を教えてください。先ず餃子がいいですね。それから炒飯やスープ、炒め物を上手に作るコツなど楽しみにしていますね。

私達はそれぞれに育ったお国は異ったけれど、戦争の為に人生も随分いろいろな目に会って苦労しましたが、それなりに得るところも沢山あったような気がします。戦争はいやだけれど、何でも工夫しながら上手に作ったり、使ったり、これはあの時代に育った人達でなければ出来ない事です。何でもプラスに



かんが ありがた なに
考 えば有難いことです。そして何もなかつ
たいへん じだい わたしたち いっしょうけんめい そだ
た大変な時代に私達を一生懸命に育ててく
りょうしん かんしや
れた両親にも感謝しましょう。

またみなさま ぎょうざ かい あ ひ
では又皆様と餃子の会でお会いする日を
たの 楽しむに……(横浜教室・手芸講師)

運命

ひなた かず こ
日向 和子



ことし ひろしま ながさき ひばく こく
今年は広島・長崎被爆/国
さいれんごう せんご ねん
際連合/ユネスコ/戦後60年に
あ とし ねんちか てつだ
当たる年であったため、20年近くお手伝いを
してきた会の関係でいろいろな行事に参加
する機会を得、たくさんの有意義なお話を聴
く機会に恵まれました。

なか うんめい い こと ば
その中で「運命」と言う言葉があるのだ
な……と感じたお話を2、3紹介します。

とうきょうげいじゆつだいがくがくちやう が か ひらやまいく おせんせい
1. 東京芸術大学学長・画家 平山郁夫先生
しやう わ ねん がつむいか ひろしま げんぼく とう か
昭和20年8月6日、広島に原爆が投下さ
れた日、当時中学3年生だった平山先生は
きんろうどういん ひろしま りくぐんへいき ほきゆうしやう
勤労動員で、広島の陸軍兵器補給廠にいら
した。8時に点呼を受け作業開始、作業小屋
に入った。

そのとき、そと だいせんこう
外で大閃光があったかとおもうと
ばくふう ねつせん こや はい
爆風と熱線がワーと小屋に入ってきた。

しばらくして外に這い出てみると爆風でま
わりの建物は飛ばされていた。

せんせい ざいせき ちゆうがく きやうしよくいんせい
先生が在籍されていた中学では教職員生
とあわ 徒併せて201名が即死した。

せんせい はい こや げんぼく かぜ
先生が入った小屋はたまたま原木の陰に
なってシェルターに入ったようになっていて
たす 助かったとのこと……

もとひろしまだいがくがくちやう たけやまはる お せんせい
2. 元広島大学学長 竹山晴夫先生
ひろしま げんぼく とう か とき とう じ ひろしまだ
広島に原爆が投下された時、当時広島大
がく せんせい たけやませんせい だい
学の先生であった竹山先生は、いつもなら大
がく しゆつきん とちゆう ちやうど しでん お じこく
學に出勤の途中で丁度市電を降りる時刻で
あったが、その日はたまたま前日大學に泊り
こ よう でき だいがく たてもの なか たす
込む用が出来て、大學の建物の中において助
かったとのこと……

とも がつむいか へい わ きねん
(1、2共8月6日「平和記念レクチャー・コン
サート」於東京芸術大学奏樂堂)

もとながさきだいがくがくちやう つちやまひで お せんせい
3. 元長崎大学学長 土山秀夫先生
しやう わ ねん がつこのか ながさき げんぼく とう か
昭和20年8月9日、長崎に原爆が投下さ
れた日、当時土山先生のお母さまは、大分
ひやうきりやうやうちゆう
で病氣療養中であられた。

その日、お兄さまがお見舞いに行く予定で
あったが、お兄様はその前の週に行ったの
で、今回は先生が会いに行行ったほうが良いと
いうことになった。しかも用意してあった汽車
のキップが予定より早い7時台のと交換出来、
げんぼくとうか じ しやちゆう ひと
原爆投下時は車中の人となっていた。

おおい た つ ながさき なに たいへん
大分に着いてから長崎で何か大変なことが
あったらしい……とのことで長崎に戻ってみる
まち や の ほら い だいいせい せんせい
と町は焼け野原……医大生であった先生は
ひ さいしや きゆうご かたわ にいさま いえ
被災者の救護の傍ら、お兄様の家のあった
あた しやうそく て さが なに み
辺りに消息の手がかりを探したが、何も見つ
からず、何日か後やとと義姉のピアノの線ら
しきものを発見しただけであった…… 幼い甥
もいたのに……とのこと……

がつこのか か がく げいじゆつ じんるい きようぞん
(8月9日「科学・芸術と人類の共存シンポ
ジウム」於 東京大學安田講堂)

わたし じんせい
私は、人生とは・・・など深刻に考えたこと
もなかったように思いますが、それでも自分
の人生は自分の責任で切り開いていくも
の・・・と思って生活してきたと思います。しか
し、人生には、自分では決められない運命が
あるのも確かなようであります。

ち いききょうしつ ざんりゆう こ じ せい みな にほんご
地域教室で残留孤児1世の皆さまと日本語
の学習をしているが、1世の皆さまは私と同
世代です。同じ時代に生まれ、残留孤児とし
て日本人でも中国人でもない生活を強いられ
た皆さまそんな事があつたとも知らずに大人に
なつた私・・・「運命」は過酷でもあります。(横
浜教室・ボランティア)

上高地への旅行

なかやま えい こ
中山 瑛子



がつついたち にほんご べんきょう
11月1日、日本語を勉強して

き こくしゃたち せんせい いっしょ ながの けん ゆうめい
いる帰国者達は先生と一緒に長野県の有名
な観光地の上高地に一泊二日の旅行に行き
ました。

あさはやくしゅつぱつ しずおかけん やまなしけん
朝早く出発して、バスで静岡県、山梨県を
へ もくてきち む とちゅう えんどう
経て、目的地に向かいました。途中、沿道の
いろいろな所を見ました。紅葉がきれい、
あかき えだ みの
赤いリンゴが木の枝にいっぱい実つていま
した。富士山もはっきり見えました。

ひる とうげ かま ひとやす
昼ごはんは峠の釜めしでした。一休みして
たび つづ とお み やまやま
旅を続けると、遠くに見えたアルプスの山々

せま
がだんだん迫ってきました。ガイドさんによる
ひょうこう 3,000メートルぐらいの山は雪が一
ねんじゅう 年中あるとのことでした。緑の山、雪の山頂、
あお そら え
青い空はきれいな絵のようでした。

ゆうがた じ あずみむら しらほねおんせん つ
夕方、7時ぐらいに安曇村の白骨温泉に着
きました。夜、泊まっている「新宅旅館」で宴会
が開かれました。みんな一緒にきれいな日本
りょうり た の うた うた
料理を食べたり、飲んだり、歌を歌ったりしま
した。60年代の歌を歌って、私はその時代のこ
とを思い出しました。若返つたようでした。

りょかん よる ね まえ あさ さんかい おんせん
旅館で、夜、寝る前、朝、と三回も温泉に
はい いちにち たび つか
入つて一日の旅の疲れがとれました。

よくじつかみこうち い さかみち せま けわ
翌日上高地に行きました。坂道は狭くて険し
くて、沢渡で高地の専用バスに乗り換えました。

お あずさがわ そ
バスターミナルでバスを降りて、梓川に沿
つて「大正池」河童橋まであるいて、美しい
しぜん けしき はいけい しゃしん と やま
自然の景色を背景に写真を撮りました。山の
しんせん くうき す き
新鮮な空気をいっぱい吸つて、とてもいい気
もち
持でした。

かえ とちゅう にほん こくほう まつもとじょう
帰る途中で、日本の国宝の松本城によ
つてしゃしん と
つて写真を撮りました。

いえ かえ じす
家に帰るともう9時過ぎでしたが、すばらしい
たび りょこうちゅう わたし せいかつ なや かんぜん
旅でした。旅行中、私は生活の悩みを完全
に忘れませんでした。楽しかったです。もう一度旅行
したいと思つておりました。(横浜地域教室・学習者)

私の晩年生活

おう けいろう
王 桂雲



わたし ふたり こども にほん
私は二人の子供が日本
で暮らしています。子供達の
ふだん せいかつ く
普段の生活と暮らしはとても
いそが
忙しいです。

わたし ていねんたいしょく こどもたち すこ
私は定年退職してから子供達に少しでも
やくだ おも にほん
役立てばと思って、日本にきました。

おも まご めんどう こどもたち
主に孫の面倒をみっていますが、子供達の
しごとじょう せい か まご せいちょう すがた じぶん
仕事上の成果と孫の成長の姿をみて自分
しあわ かん
はとても幸せだと感じます。

いま わたし おも ふた がんぼう ひと
今、私は主に二つの願望があります。一
つは自分が健康で子供達に迷惑をかけない
ことです。もう一つは自分の興味を広げて日
じょうせいかつ ゆた
常生活がもっと豊かになることです。

また、日本での生活がより便利になるため、
にほん ごきょうしつ かよ はじ
日本語教室に通い始めました。ここでたくさ
んの新しい友だちができてとても嬉しいです。
これから日本語の勉強をもっと頑張って、
にほんご べんきょう がんば
日本人との交流と日本人の友だちをつくれる
ことを願っています。(地域教室・学習者)

しゅう き りょこう 秋季の旅行



たまえ
林 玉恵

がつ にち ど にちゅうゆうこう
11月23日(土)日中友好
けいざいこうりゅうかい だい かい しゅう き
経済交流会の第3回の秋季
りょこう かいさい
バス旅行が開催されました。

あさ10時に池袋東口に集合しますので、
はや じゅんび ちかてつ の
あさ早く準備して、バスと地下鉄に乗って、
とつか いぐち まえ ほんだかいちよう とも
戸塚JR入り口の前に、本田会長と友だちと
まちあわせて、いっしょ しゅっぱつ
待ち合わせて、一緒に出発しました。みんな

しゅうごう じかん あ しんぱい
集合時間に間に合うかどうか心配でしたが、
ついたら大丈夫でした。集合時間に間に合
いました。バスで出発しました。富士川で昼
しょく た の
食を食べました。そして、モノレールに乗って、
あおぞら こんべき うみ なが
青空と紺碧の海を眺めました。それからとくがわ
ばくふ し そいえやすこう まつ く のうさんとうしやうぐう さん
幕府の始祖家康公を祀る久能山東照宮を参
ばい ごと じ ごと やいづ
拝しました。午後7時ごろ焼津グランドホテル
に着いた。みんなすぐお風呂に入っておわり。
ゆうしょく じかん た
夕食の時間になってみんな食べたりカラオケ
をしたり、とても楽しかった。

つぎ ひ じ ぶん しゅっぱつ やいづさかな
次の日8時30分ホテルを出発。焼津魚セ
ンターへ行きました。センターには魚やかに
かいそう なか おい
や海草などがありました。中でいちばん美味
しそうなかに、おお あし やすくて、みんな買
いたいです。でも生ものだから、バスの中に
よくない。残念です。買わなかった。バスの中
まど うみ やま けしき
で、窓からのぞいて、海と山、いい景色でし
た。それからやよいじだい とろ いせき けんがく
御殿場の弥生時代の登呂遺跡を見学、
ごてんば
御殿場のアウトレットでショッピングして、夜7
じ いけぶくろ きちやく ふつかん たの
時に池袋に着き、この二日間とても楽しか
ったです。(地域教室・学習者)

じ こしょうかい 自己紹介



なかもと えいこ
中本 栄子

わたし なかもとえい こ もう
私は中本栄子と申します。
しゅじん ちゅうごくざんりゅうにほんじん こ じ
主人は中国残留日本人孤児
です。平成5年2月12日一緒
にほん き よんせたい こども
に日本へ来ました。あとで四世帯の子供たち
にほん よ き わたし しゅじん
を日本に呼んで来ました。いま、私と主人と
さんせたい こども よこはまし あさひく かみしらね ちよう
三世帯の子供たちは横浜市旭区上白根町

す じじょ いっか ちゅうごく に住んでいます。次女の一家だけは中国に
かえ ち いきょうしつ がくしゅうしゃ 帰りました。(地域教室・学習者)

ユッカの会秋のバス旅行

井上 琴子



11月30日いい天気でした。
ユッカの会では日本語の勉強
をしている中国帰国者と家族の
皆さんと先生達と一緒に一日の旅が始まりま
した。朝9時横浜駅西口から3台の旅行バス
で出発。私と夫は2号車でした。午前11時
頃、小田原市の鈴廣蒲鉾店に着きました。い
ろろな蒲鉾とっても美味しかったです。お
みやげも買いました。11時半頃、昼の食事をし
ました。おでんセットを食べました。

12時半から14時まで生命の星地球博物
館を見学しました。昔の恐竜から現代の剥
製の蝶まで、いろいろな動物を見学しました。
写真もいっぱい撮りました。本当に楽しかっ
たです。18時30分、横浜駅西口に戻りました。
一日の旅が終了しました。私達は先生方
に感謝します。(地域教室・学習者)

生活文化の違い

天野 春生



私はユッカの会に参加して、
早や満七年になります。この間日本語を教え
た学習者は、七人になります。偶然ですが、
全員中国黒龍江省の出身者です。この人

たち せつ せいかつぶん か うえ ししょう 達と接してきて生活文化の上で、なんら支障
をきたしたことはありませんが、曾て中国瀋
陽で、日本人旅行者相手のガイドをしていた
ひと つぎ 人から次のようなことを聞きました。

仲の良い夫婦だと思っていた男女のうち、
女性が男性に「お父さん」と話しかけたのです。
「あれ！」と驚きました。年齢の差もあまりなく、
まさか父娘の筈はないと思い乍らなんとも不
思議な思いに駆られたそうです。

私たち日本人にとってみれば、子供のい
る夫婦が相手を「お父さん」、「お母さん」と呼
ぶのは極く自然なことなのですが、中国人に
とっては、まさに驚きの光景のようです。

また来日してびっくりしたことがあるそう
です。何と餃子をおかずにして、ご飯を食べて
いる光景を見たそうです。

これまた日本人には、決して不思議なこと
ではないのですが。(戸塚教室・ボランティア)

日本語を教えるようになつて

来島 恵美子



ユッカの会で日本語を教える
ようになって、早3年が経ちました。

ある事がきっかけで、インターネットでユッ
カの会を見つけ、早速中さんにお電話させて
いただいたのが始まりです。

子供の頃から外国、異文化に興味があつ

わたしですが、その後は長年音楽と関わって
きました。しかし、いよいよ年齢が半世紀を迎
えた頃から、音楽以外のもう一つのやりたか
った事を始めずにはいられない気持ちになり、
私の新しい人生もスタートしました。

しかし、専門でない私が日本語を教えて
いいものだろうかと考えましたが、“やりたい”
のだし“やらせていただける”のだから“い
いじゃないか！”と割り切る事にしました。

強く興味があっただけあり、始めてみると増
々興味がわき、楽しく(時には悩みながら)教
えさせていただいています。

そして、今まで私が長年音楽教室で教え
てきた、子供にしろ大人にしろ“人と接し、も
のを教える”という経験が、ここで大きく生か
されました。相手に愛情を持って接し、相手
を理解しようとするれば、相手も心を開いてく
れました。

“ユッカの会”の生徒さんは、それぞれいろ
いろ不安を抱えていると思いますが、そんな
なかわたしにほんごかれらにちじょうせいかつ
中私は日本語だけでなく、彼等の日常生活
での不安を少しでも取り除く手助けができれ
ばと思っています。ですから日本語学習も各
々の状況で必要となるであろう言葉を中心
にやり始めたり、言葉だけでなく、関係してく
るであろう生活習慣についても触れるように
しています。

また、赤ちゃん、子供さんのいるお母さんに対
しては、その子供達が成長して幼稚園、小学
校に入る時の事を考え学習しています。どん

どん成長していく子供の日本語に負けないよ
うに、子供が幼稚園に入った時、母親として困
らないようにと思う事が励みになるようです。

もう一つ、私が日本語を教えるにあたり役
立った事があります。それは少し前から英会
話を習い始めていた事でした。語学を“習う”
事は“教える”時に、効果を示しました。学習
方法は勿論のこと、各々の言葉の持つ考え
方、文化の違いによる互いの言葉をすぐに置
き換えられない場合がある事やニュアンスの
違いなども理解しやすかったような気がしまし
た。又、生徒としての気持ちも十分分かるの
で、大変プラスになったと思います。

三年たった今、自分の力のなさを痛感す
ると共に、それまでなにげなく使っていた
“日本語”を再認識し、今まで以上に日本語
に魅力を感じるようになりました。

今後は教えるためにだけでなく、自分のた
めにも日本語の勉強をしていきたいと思っ
ています。

偶然でしたがユッカの会を知りその一員
になれた事に感謝します。(戸塚教室・ボラ
ンティア)

おもいもかけぬ受賞



あおき へいえ
青木 平衛

今年の11月、わたしが副会
長をやっている疎開問題研究
会が「ヨコハマ遊大賞」という賞を

受賞した。「ヨコハマ遊大賞」と言うのは横浜
在住の作家、洋画家、イラストレーター、歌
人、漫画家などなどの文化人がNTT 東
日本神奈川支店の協賛を得て、毎年、表彰
しているもので、過去にはペリー上陸の歴史
的証人といわれる横浜開港資料館の庭の
玉楠の木や、崎陽軒のシュマイ弁当など
ユニークな物が受賞したり、優勝前年の横浜
ベイスターズに賞を出したりして話題を呼ん
だ大賞だ。

疎開問題研究会というのは、第二次世界
大戦後半の昭和19年(1944年)8月、敗色濃
厚な日本政府が、戦争の足手まといになる小
学生を、激しい空襲から守る為、都市や工場
地帯から疎開させた時の経験者が集まって
組織した会で、戦時下の小学生が父母から
引き離され、田舎や山奥の農家やお寺、宿
屋などに強制的に行かされた時の経験をまと
め、学童疎開とはなんだったのか、戦争が子
どもたちにおよぼしたものはなんだったのか
を、今の時代の人々に語りつなぐ会だ。

敗戦後50年の2年前の平成5年(1993年)、
われわれ疎開経験者が集まって「横浜市の
学童疎開50年を記念する会」を発足し、学童
疎開の資料を集めたり、経験談をまとめたり
する作業を始めた。

毎週土曜日に横浜市教文センターに集ま
っての作業は大変だったが、初対面とはい
え、学童疎開という、同じ経験をした同年輩
のわたしたちは、直ぐに打ち解けて楽しい集

いにもなった。

私もその時61歳を過ぎ、そろそろ定年後
の生き方を模索している時だったので、疎開
の会の作業に傾注していた。その時に知り
合った仲間の一人に、ユッカの会の、今は亡
き竹内稔さんがいた。その彼に誘われてユ
ッカの会に参加したのだから、疎開の会もご
縁があるわけだ。現在も活躍中の日本語ポ
ランティアの大石俊雄さんも、同じ疎開問題
研究会の仲間だ。

2年後の平成7年(1995年)、作業の結果
が「横浜市の学童疎開それは子どもたちのた
たかいであった」という本になり、横浜市教育
委員会から出版された。2年間もかけての労
作だけに、何かの賞でももらえるのではない
かと期待していたが、何もなかった。

それより、同じ戦争体験の中で横浜の空
襲を記録する会が2002年に横浜文学賞を
授賞され、選考委員の一人から、横浜大空
襲は学童疎開などより重いなどと言われ悔し
い思いをしたものだった。

その後、毎年、横浜市立図書館や神奈川
県アースプラザ、有隣堂などなどで学童疎開
の資料や手紙、日記帳、写真などなどの展
示をやって来た。昨年は疎開当時の記憶を
もと元会員有志の手作りのジオラマを作成し、
疎開先の情景を再現した物が話題を呼んで、
昭和の歴史を保存する昭和館に寄贈したり、
桐蔭学園の学園の展示会に貸し出しをする
ほどの評判になったことから、今度の受賞に

なったものと思われる。

戦後60年の今、空襲の話や学童疎開の経験をまとめた物が改めて受賞するということは、あの大战の悲劇を忘れず語り継ごうという人々の気持ちの表れだと思ふ。

考えてみればユッカの会も昭和20年(1945年)の大战終了時、旧満州から逃れるように引き上げてきた邦人が残した残留孤児の方々や、その子女に日本語の教育の手助けをしようと会長の沼波万里子さんが設立されたものだ。嬉しいことにユッカの会は平成5年(1993年)に安藤為次教育記念財団奨励賞を受賞したのを皮切りに、平成6年(1994年)、13年(2001年)に厚生大臣感謝状、厚生労働大臣感謝状などなどを受賞している。

これからも、ユッカの会の一員として努力を重ねていくと同時に、疎開問題研究会としても、あの悲惨な戦争の体験者として、二度と戦争を引き起こさないように語り継いでいかななくてはならないと、思いを新たにしている。(横浜教室・ボランティア)

平和と宗教

もり みきお
森 幹夫

戦後60年、私達の住んでい
る日本は平和憲法の下で平和
国家を旗印にして生きて来た。



この平和は日本人 自らが勝ち取ったもので

なく、あの米国という大国に無謀な戦いを挑み、敗れた結果によって得たものである。日本人は平和ボケしていると言われるが、平和は何にも増して有難いと思ふ。

世界ではいま、いろんなところで紛争が絶えない。勝っても負けてもお互いの憎しみは消えることがなく、平和には程遠い、飢え、病氣等で荒廃した国が存在する。神様はこういう国々で貧困と苦しみに喘いでいる人たちをどうしてお救いなされないのだろうか。

イエス・キリストは、「左の頬をぶたれたら、右の頬を差し出しなさい」と説いたと伝えられるが、キリスト教の国である米国は、左の頬をぶたれたら相手の頭を金槌で殴り返すというような行為を平気で行っている。また、イスラム教ではアラーの神がこの世の中で唯一の神であり、他の神はすべて邪悪の神であるから抹殺すべきであるというご託宣だそう。

日本でも、徳川家康が天下統一を果たす前まではいろんな内戦、例えば関が原の合戦、桶狭間の戦い、応仁の乱等々あるが、すべては権力争いに基づいたもので、宗教上の争いで起きたものは全く無い。また、日本は単一民族のため、民族紛争も無い。

外国から日本へ来た人がとても不思議に思ふのは冠婚葬祭の風習であろう。

子供が生まれて約30日たったら「お宮参り」をする。神前で祝詞を上げて貰い、健やかに育ちますように、と神様にお祈りする。

成人してよき伴侶にめぐり合い、結婚の式を挙げるのは昔はたいてい神式だったが、近頃は「教会」と称する式場でとり行うことが多い。「お二人の一生の大切な思い出は〇〇チャペルで」という広告をよく見かけるが、この教会にキリスト教徒が日曜礼拝に集まり、賛美歌を歌って牧師さんの説教に耳を傾けた後、感謝の献金をして帰る、というのを聞いたことが無い。結婚式場だけの「教会」がこちらにあるのは日本だけかもしれない。

そして人生を全うして生を終えたときは仏式で葬儀を営み、遺骨はお寺の墓地に埋葬される。日本の宗教は一体何なのであろうか？ と外国人が疑問を持つのは無理からぬ話である。

日本は元々神道の国であったのだが、5世紀の中頃に中国から仏教が伝来し次第に広まって行った。一時的には多少のいざござはあったかもしれないが、日本人は、神様は神様、仏様は仏様と差別せず一体感で受け入れて行ったようだ。

観音様で有名な浅草でも、お寺である浅草寺と浅草神社とは同じ構内に建てられていて、「私は神を信じているから観音様にはお祈りしない」とか、「私は仏教徒だから浅草神社にはお参りしない」という人は居ない。

関東では七福神巡りが最近盛んになっていると聞いている。インターネットで調べると、東京23区内で19コース、神奈川県で13コースもあった。

毘沙門天、弁財天、恵比寿神、大黒天、福祿寿、寿老人、布袋和尚、の七福神の内、仏様は布袋和尚だけであとは皆神様である。それにも拘らず、神様がお寺に祀られていることが多い。東京の隅田川七福神は三箇所がお寺、山手七福神は七箇所全部がお寺、亀戸七福神は四箇所がお寺、とまちまちであるが、日本人はこんなことには疑問を持たない。

最近久保田展弘氏が書いた「日本多神教の風土」という本(PHP新書)を読んだ。この中の文のごく一部を要約するが、著者はこう述べている。

日本人が神として祀られる例は、菅原道真だけでなく、徳川家康の日光東照宮、日露戦争の立役者であった東郷平八郎の東郷神社などがある。

歴史上の人物が神として祀られていることに日本人は少しも違和感を持たない。日本人の伝統的な神の認識は、神と人が隔離しないところにある。

一つの絶対的な存在である神との契約のもとに信仰がはじまるユダヤ教、キリスト教、そしてイスラム教の一神教世界とは本質的に異なっている。

「私はあなた以外の神は信じません。」という契約の思想は日本人には無い。

例えば熊野の本宮に参詣し、社殿に向かって柏手を打って祈願する。しかし、熊野の本宮の神がどなたであるかを意識する人はま

ず居ない。これが大方の日本人の神詣であらう。熊野の本宮に参ったあと、那智の青岸渡寺へ詣でることも不思議ではない。

日本人の神への認識のあいまいさは、日本人の信仰心、宗教観に、大原則や規範が無いことをも示している……と述べている。

いま世界の人口は63億人であり、キリスト教の人口は20億人、イスラム教の人口は12億人、それに比べて仏教の人口は僅か4億人だそうだ。一つの神しか信じない宗教、他の宗教を排斥してはばからない宗教に比べ、この世の人々すべてを暖かく包み悩みを救う、懐の深い仏教がもっと世界に広まっていたら、無益な殺戮の起らないもっと平和な世界になっていたであろう。

キリスト教やイスラム教に比して仏教の宣伝力が不足していたため、というのは考えすぎだろうか。(横浜教室・ボランティア)

えていたはずの言葉や、知り合いの人の名前などが思い出せなくなりました。

私は、現在この会でみなさんと一緒に日本語の学習をしています。もちろん、日常の生活で言葉に不自由はしません。でも、まだまだ読めない、書けない文字や、漢字はたくさんあります。新聞や、本をよんでいると、新しい言葉なのかなと思うことがあります。どこの国の言葉でも学びつくすことはできないでしょうし、死ぬまで言葉の勉強は続くと思います。

ところで、みなさんは、現在日本語を覚え、使えるようにとご苦労されています。多分、一人一人の記憶力と学習時間のことなりの中で、言葉の勉強の大変さを実感されていると思います。子供たち、若い人達とちがって、一度にたくさん覚えるわけにいきません。一つ一つ言葉を覚え、積み重ねていくには、とても時間がかかります。時間はあるかもしれませんが、進歩のなさに熱意、意欲が続かずに、あきて投げ出してしまいます。

何かいい方法はないのでしょうか。残念ながら、世界中で外国語を習得しようとしている人たちには、なかなかよい方法は少ないようです。その国の人達とともに生活をするのを除いては。ともかく、一日の中で、まとめではなくとも、少しずつでも時間を取り続ける。あまりつらいと思わなくてすむように、ゆっくり、ゆっくりと、急がずに、半年、一年後には今より上達していると思いつつながら、なるべく楽しくなるよう工夫をしながら、私は学んでいきたく

外国語学習の苦 労

波多野 重信



私は今年で60歳になりました。何年も前から、身体的な面で気になることが少しずつ増えてきたなと、実感しています。誰もが同じだと思いますが、筋力のおとろえ、視力のおとろえ、それから記憶力の減少などです。言葉を覚えづらくなり、時間がかかるようになる。また、確かに覚

おも よこはまきょう
いと思っています。(横浜教室・ボランティア)

にほんじょせい じんせい かん まな 日本女性の人生観に学ぶ

いん りんりょう
員 琳蓉



こじかじゆん こ
小鹿純子からおしんまで
(日本のドラマ上の人物)、ま
わたしたち そうぞう にちじよう
た私達が想像している日常
かじ お にほんじょせい いた
の家事に追われている日本女性に至るまで、
いま にほんじょせい せいかつ かんが
今の日本女性はいったいどういう生活と考
え方をしているのでしょうか。

わたし にほんじょせい たい か かんそう
私には、日本女性に対して書きたい感想
がありました。かまえ さまざま しきく
が、書く前にすでに様々な思索
ゆき にほんじょせい ひんせい かげ じぶん
が行き来し、日本女性の品性の影に自分が
ちい み
小さく見えたりしています。

にほん せいかつ とうじん
日本での生活をきっかけにして、数人の
にほんじんじょせい つ あ
日本人女性と付き合うようになりました。まず、
ひとり かつ だい わたし
一人の方は、50代の私のボランティアのA
せんせい い ぜん へんしゅう りゆうがくせい おし しごと
先生で、以前は編集と留学生を教える仕事
たずさ せんせい どりくしょ だいす
に携わっていました。A先生は、読書が大好
いえ なか いちばんおお もの ほん どりくは
きで、家の中で一番多い物は本で、読破した
ほん ほんだな す ほん
本は本棚にぎっしりで、捨てられた本は1000
さつ さいしよ せんせい
冊もあったそうです。最初、A先生からこうい
しつもん ちゆうごく とう じだい なんねん
う質問をされました。「中国の唐時代は何年
のことでか」と。ぶんか けいしゆつしん わたし
文科系出身の私は、すぐ
こた ひじよう なさ おも
に答えられなくて、非常に情けない思いをし
また ちゆうごく じゅうねんかんつづ
ました。又、中国のことについて十年間続い
ぶんか だいかくめい げんざい けいざい せい じ じようきよう
た文化大革命から現在の経済と政治の状況
わたし すべ くわ ぞん じ わたし ほんとう
まで私より全て詳しくご存知で、私には本当
おも
に思いがけないことでした。それにひきかえ、
まいにちにほん しょくひん た わたし にほん
毎日日本の食品を食べている私は、日本の
でんとうてき あじ りりょう きんぴら ご ま あ
伝統的なおふくろの味の料理「金平と胡麻和

え」ですら分かりませんでした。私も、これか
らにほんぶんか べんきよう
日本文化をきちんと勉強しなければならな
いと思っています。A先生は、豊富な知識を
もって、ともだち かいしゃ てつだ
お友達のを会社を手伝っていますし、
お年よりのひとたちのために、パソコン教師の
資格を取り、来年はパソコンのボランティアの
先生になるそうです。

つぎ だい だいがく ねんせい
次は、20代の大学4年生のBさんです。
ことし ぜんはん かのじよ じぶん じしん のうりよく けんめい
今年の前半、彼女は自分自身の能力と懸命
どりよく しゆうしよくかつどう さんか ななころ やお
の努力で、就職活動に参加、七転び八起き
すえ ゆうめい しょうしゃ しゆうしよく き
の末、やっと有名な商社への就職が決まりました。
それに比べ、いまや中国の新卒業生
しごとさが かぞく しんせきみな ぎむ
の仕事探しは、家族と親戚皆の義務のように
なっています。じぶん なんの どりよく
自分は何の努力もすること
なしに、しんぞく ちじん なか かいしゃ じゅうよう
親族や知人の中に会社の重要なポ
ストについている人がいさえすれば、仕事を
たやす
容易くもらえるようになるのです。

また、Bさんが作ったカブのお料理で、彼
じょ りりょう りうでまえ よいことが わ
女の料理の腕前もすごく良いことが分かります。
まいにちしょくどう かよ ちゆうごく だいがくせい
毎日食堂へ通っている中国の大学生
たちは、その中の一人、二人が料理上手に
なれば、それはきつと おどろ
驚かれることになるで
しょう。がくせい おも にんむ べんきよう
学生は、学生の主な任務は勉強ではありません
べんきよう せいかつ いちぶ たんじゆん
が、勉強を生活の一部とするとともに、単純
な勉強をなくせば、すこしは せいかつ かん ちしき
少しは生活に関する知識
が持てるようになるでしょう。

つぎ わたし ともだち だい
次に、私と友達になった40代のCさんです。
ことし がつ わたし こうかん にほん ご ちゆうごくご
今年の3月から私と交換で日本語と中国語
べんきよう せいかつ いちぶ たんじゆん
を勉強してました。お互いに せいかつ かん ちしき
交流している
なかで、かのじよ ころ わたし やく た
彼女が心こめて、私に役に立つ

ことをたくさん教えてくれました。同時に、私も中国語の発音や難しい文章を教えました。或る時、通勤の電車内で、彼女はならるじんふじのせんせいぶんしやうぜんぶにほんごに翻訳してきました。忙しい時間帯に、まだ勉強のことを忘れずにいて、私は感心せざるを得ませんでした。今、彼女は理想を追求するために、台湾へ留学に行きました。やはり、一人で台湾で生活することは寂しいし、異国で不随意な事もあるし、誰でも臆病な気持ちで念頭にあるでしょう。彼女は、その困難を克服して、今月の初めには、もう台北のある大学に入りました。今の私たちも、もつというろんな事に挑戦すれば、将来に悔いを残さないでしょう。

最後は、私のお母さんみたいなボランティアのD先生で、3年前にもう古希を迎えました。D先生はよく疲れを忘れ、4時間続けて私に日本語を教えています。いろいろ気遣いの言葉を掛けてくださって、心が温かくなります。加えて時々日本のお菓子でお人つをしたりする時の和やかな一時は、全く故郷の家にいるような雰囲気そのものではないでしょうか。特に、私の試験のことには、D先生も自分の重大な責任として、ほとんど私と同じぐらい心を掛けて一步一步問題集に取り組んで下さいました。私は、「感動」と言う言葉を除いては何も表現できないでしょう。その貢献の精神の根源は一体何でしょう。私の推測する所では、多分自分の生きがいを求めることに他ならないのではないのでしょうか。

以上書いたことは、日本の女性に対して異なった考え方がある人や、或いは、もつとかやりたい気持ちがある人に、私の知っている、人生を前向きに生きている日本女性の姿を知って欲しいのが目的です。(横浜教室・学習者)

自己紹介



孫立文
私は孫と申します。中国人です。6年半前に日本へまいりました。

友だちの紹介で今年の5月の始めからユッカの会で廻谷先生と日本語を勉強しています。週一回、教科書を学びながら、身近な生活など、話題を会話しています。とても楽しいし、役に立ちますし、ほんとによかったと思います。(横浜教室・学習者)

大学入試合格まで



張冉(長浜 智夏)
私は先月大学を受験しました。中学の時から私の面倒を見てくれている江口先生の指導で無事受かりました！ 本当に感謝しています。

ユッカの会の先生方は私みたいな外国から来た子供たちのため、たくさんのおしえてくれたり、困った時に助けてくれたり、私た

ちにとってとても大切な存在であると思います。

私は江口先生のおかげで合格できたと思っています。受験まで後ひと月の時、私は面接の事などでとても困っていました。自分に自信がなくて毎日「落ちたらどうしよう、、、」と悩んでいました。そんな時に江口先生が一緒に面接の練習をしてくれたり、完璧に答えられるまで面倒がらずに何回も繰り返して考え直してくれました。筆記試験もあったため、新聞記事を読みやすく大事なところを説明してくれました。

試験だけではなく、精神的にも私を支える力となりました。鬱な私に「貴方は実力があるから絶対受かるよ！」など励ましの話をたくさん言ってくれたので、私もそれで自信がきました。

私は良い先生に出会えて本当に良かったと思います。これからも先生と仲良く付き合っていきたいと思っています。(横浜教室・学習者)

ユッカの会

胡 同容

私は胡同容です。中国の四川省で生まれました。日本人と結婚をして今年の3月に日本に来ました。今は藤沢に住んでいます。

初めて日本に来てしばらくはとても大変でした。日本語はあまり上手に話せないし、友達もいないし、毎日家の中にいるだけで、と



でも寂しい生活を送っていました。ユッカの会に行くようになってから、少しずつ生活が変わって来ました。先生がとても親切に教えてくれるので、日本語もだんだん上手になりました。また、友達もでき、日本での生活も楽しくなってきました。本当に嬉しいです。

皆さん、もし機会があれば是非来て、一緒に日本語と日本の文化を勉強しましょうね。(戸塚教室・学習者)

大根

朱 暁兵



最近、ある地方の道の間に生長している一本の大

根が折られてしまったというニュースを聞ききました。この大根はずっと周辺の住民たちに注目されていたらしく、折られてしまったことでみんな怒ったそうです。このニュースを聞いて、不思議な思いになりました。こんな小さな出来事は、わざわざテレビニュースで放送されるとは、まったく思いませんでした。ニュースといえば、世界中の重大な出来事とか、スポーツとかが、放送されると思います。大根のような出来事は中国のマスコミでは絶対に放送されません。なぜ、わざわざこのニュースが放送されたのでしょうか。この疑問はずっと私の心に残っていました。

二三日後、この大根のニュースはまた放送されました。今回、周りの住民が折れた大根の上を見つけました。そしてこの上の部分は

栄養液に入れられて、何とか、新しい葉が出始めました。この強い生命力に、初めて感心しました。そうだ、もともと育っていたところも道路の隙間だったのです。この強い生命力のおかげで、あんな貧弱なところでも元気に成長していたのでしょう。だからこそ、みんなの注目が集まったわけです。

この大根は私にいろいろ教えてくれました。結果はともかく、頑張ることは、みんなの尊敬を得られます。環境は、どんなに貧しくても、チャンスはどんなに少なくても、一生懸命のやる気が、一番大切だと思っていますが、皆さんはどう思いますか。(横浜教室・学習者)

台湾旅行

すぎやま とも こ
杉山 智子

私の子供の時の夢は将来台湾へ旅行に行きたいということでした。2004年、やっとその夢が実現できました。

11月26日、私はツアーに参加して国泰航空で午後6時頃台北の中正国際空港に着きました。それからバスに乗って宿泊地の「一楽園大飯店」へ行きました。その頃、市内はどこもきらびやかでした。途切れることのない車の流れを見て、「あら！ 何とすばらしい大都市かしら」と思いました。

27日朝8時から台北の市内見学に出発しました。まず、私たちは「保安宮」にいて、つぎ「孔子廟」と「忠烈祠」、「中正紀念堂」

にいて、最後「故宮博物院」へ行きました。

昼食はみんなでレストランで台湾料理を食べました。とてもおいしかったです。

午後、宿泊地へ帰る途中で、私たちは「大山藝教室」に行きました。いろいろなお茶の作り方を教えてもらって、おいしいお茶を飲んで、いいお茶を買って帰りました。

今私が覚えているのは「中正紀念堂」と「故宮博物院」です。「中正紀念堂」は蒋介石(中正公)死去後の1980年に完成した高さ70mの巨大な紀念堂。25万㎡の広大な中正公園の入口には、これもまた巨大な大忠至正門がある。紀念堂の1階は文物展示室、2階には高さ6.3mの蒋介石のブロンズ像あり、直立不動の衛兵に守られている。台湾の「故宮博物院」は世界屈指の大規模ミュージアム(博物館・美術館)である。

故宮とは中国大陸の明朝と清朝の宮殿であった紫禁城のこと。この紫禁城に収められていた中国皇帝の膨大なコレクションを所蔵する博物館が、台北と北京にある故宮博物院だ。1911年の清朝の滅亡後、紫禁城に置かれていた皇帝のコレクションは、1925年から一部が公開された。だが、1931年の満州事変に始まり、日中戦争、第二次世界大戦が勃発、大戦終結後その約4分の1が南京から台湾へと移送された。1965年から現在の故宮博物院で一般公開されるに至った。台湾へ移送された収蔵品は、選りすぐりの文物ばかりで、北京よりも評価が高い。

にちあさ ごろ わたし だいほんてん
28日朝8時頃、私たちは「一楽園大飯店」
しゅつぱつ ちゅうせいこくさいくうこう む
を出発して中正国際空港へと向かいました。
とちゅう めんぜいてん はい たいわん とく
途中で免税店に入り、いろいろな台湾の特
しよく みやげ か じ キャセイ
色のあるお土産を買いました。14時の国泰
こうくう きこく
航空で帰国しました。

たいべいし ない けんがく とき けんちく ふうかく しき
台北市内を見学した時、建築の風格や色
さい ちゅうごくたいりく どうよう かん たい
彩などは中国大陸と同様だと感じました。台
わんじん いっしょ はな とき こま
湾人と一緒に話した時も困ったことはあまりあ
りませんでした。やはり私たちは同じ中国人
おも わたし たいわん たいりく
だと思いました。だから、私は台湾と大陸が
いちにち はや どういつこっか ひ つよ ねが
一日も早く統一国家となる日を強く願わずに
はいられせん。

こんかい みつ か かん
今回は三日間だったので、歴史文化だけ
しか見られなかったけれども、自然文化を見
がく ぜんねん わたし
学できなかったのがとても残念です。私はま
なん ど たいわん い おも よこはま
た何度も台湾に行きたいと思います。(横浜
きょうしつ がくしゅうしや
教室・学習者)

日本の歴史を感じるとき

りゅう きんしん
劉 昕晨

わたし ちゅうがっこう はい まえ にほん あそび
私は中学校へ入る前に、日本に遊びに
きたことがあります。そのとき、鎌倉へ行きま
した。私はそこでとても大きな大仏を見まし
た。「それは阿弥陀如来という、日本の国宝
だよ」と、お父さんが教えてくれました。

だいぶつ たいない しろ かんぱん かん
大仏の体内には白い看板があり、その看
ばん だいぶつ かまくら じ だい
板には、この大仏が鎌倉時代につくられ、そ
ごぼうふう うち どとうかい
の後暴風雨のために一度倒壊し、それからも
いちど た おさ こと か
う一度建てなおされたことが書かれてありまし

わたし かんぱん み だいぶつ なが
た。私はその看板を見て、この大仏の長い
れきし かん
歴史を感じました。

わたし たいわん すもう しあい
また、私たちはいつもテレビで相撲の試合
かぶき み わたし がい
や歌舞伎などを見ることができます。私は外
こくじん かん み にほん
国人ですが、それらを見て、すぐに日本のもの
だとわかります。なぜなら、それらは日本に古
くからある歴史的なものだからだと思います。

げんだい き
現代とちがうことばを聞いたり、かたちがち
がうものを見たりするとき、日本の歴史を感じ
ることがあります。(横浜補習教室・学習者)

タイからきました

かわぐち
川口 ウィッパー

こんにちは。わたしは川口ウィッパーです。
タイから日本にきました。今年で6ねんめです。
おんなのこが一人います。いぜんすんでいた
のは、川崎なかはらです。しゅじんのおとうさ
んとおかあさんといっしょにすんでいました。

いっしょにすんでいるといいことがいっぱい
あるけれど、わるいこともあります。

1ねんすこしてこどもが生まれて、わたし
としゅじんとこどもとひっこして、いまこうなんく
ひ
日のにすんでいます。

日本にきたときは「かぞくにいたい」「とも
だちにあいたい」「タイにかえりたい」とまいに
ちなみだがありました。こどもができて、せいかつ
がすこしわかりました。

まいにちいそがしく、すこしせいかつにもな
れて、今はかぞく3にんしあわせです。

にほん
日本のたべものもたべられるようになりまし

たが、なっとうとおさしみはだめです。

日本のいいところはきそくとじかんをまもることです。わたしがにほんでならったことは、きそくをまもることです。

日本ごはむずかしいから、わたしのにほんごはまだへたですが、これから日本ごをべんきょうします。日本ごのもじは、4つもあって、ひらがなとローマじはすこしわかるけれど、かんじとカタカナはだめなのでこれからべんきょうします。(戸塚教室・学習者)

ユッカの会先生にとても感謝

ロメイラン

2歳以前と52歳以上日本に<住む>。

1953年11月、私の父、母、お兄さんと私、日本から中国へ。その時私2歳です。名古屋は出生地です。

ちちは医者です。ちち、ははは優しい人です。うしろ第2人います。

お兄さんと弟<と>3人、大学生<で>勉強しました。私中学卒業後で天津市工場に仕事28年位<した>。50歳定年退職です。

ははが日本人です。優しい人のため中国人と友達<と>同じです。

家族はちち、はは、お兄さん、2番目の弟と1980年から1990年位まで日本へ。

2004年1月15日、私と娘、娘の主人と一緒に日本へ。50年後ろ日本へ<来た><2歳>より日本は初めで見ます。

2004年9月28日、横浜へ。娘の仕事会社

<が>これです。

2004年10月位から娘と横浜市女性フォーラム行きます。ユッカの会の先生安池先生親切の話す私安心と楽しいです。

日本語勉強からユッカの会の先生たちは全部優しいの好い人です。外国人多い。日本語勉強する大好き。皆さんは嬉しい>ですね。いろいろのお料理勉強、旅行、など日本語勉強(很有趣儿)

2005年6月私パート仕事あります渡辺

クリーニング行きます。

毎日働き楽しい。会社に日本人は優しいの好い人です。

私は毎週の日曜日にユッカの会日本語へ勉強続<く>です。

感謝ユッカの会全部先生。感謝区役所宮さまと石川さま。感謝戸塚区職業安定所の担当者。感謝一緒に日本語勉強の皆さん。感謝渡辺クリーニングの社長、社長の母さんと皆さん。など。

後ろ私自分書きましたの歌う:クリーニングの歌う

いらっしやいませ いらっしやいませ

クリーニング前に猫可愛い

洗濯機回りおしゃれが毎日

お茶時お菓子話すが優しい

地球に広い働きが嬉しい

いらっしやいませ いらっしやいませ

いらっしやいませ

今回は嬉しいの日前に皆さんは日本語勉強 続<く>(加油)下さい。有難うございま

す。2005.12.12

※注 <>内は編集者

砂漠の大画廊「敦煌」から

長城最西端まで

飯田 靖子



北京から蘭州へ

テレビで「シルクロードを行く」を見て以来、是非訪れてみたい所の一つである敦煌への旅がいよいよ実現する事になった。9月12日空路上海經由黄河の上空を横切り北京へ向かった。この時期日本からの旅行者が非常に多く、北京のガイドは全て出払っていた為、天津から来たガイドが就くことになった。

まずテレビでよくお目にかかる天壇公園へ。北京の南にある天壇公園は明、清の歴代皇帝が5月15日と冬至に五穀豊穰を祈念した所で、中心は祈念殿である。三層に重なる白大理石の基壇、その上に38mもの三重屋根が瑠璃色に輝いている。梁や釘は一本も使われていない。祈念殿の南側に歴代の皇帝の位牌を祀る皇窮宇がある。壁は回音壁と言われ壁に向かって囁くと、遠く離れていてもその声が伝わってくる。若い恋人たちや新婚夫婦がお互いに「我愛你」と囁きあい、子供たちが「妈妈、爸爸」と言った後、壁に耳をつけて確かめ合



天壇

っていて微笑ましかった。

午後9時の便で蘭州へ飛んだ。ホテルに向かう途中車窓から見た月は冴えた夜空に美しく、下車して仰ぎ見た空には満天に星が輝き、手を伸ばせば掴めそうに近く、首が痛くなるまで眺めた。夜中の1時半にホテルに着いたが、「敦煌行き」の2日間の衣類などの準備を済ませると既に3時になっていた。2時間の仮眠の後、出発のため外へ出ると、昨夜の星がまだ燦然と煌いていた。

憧れの敦煌へ

13日午後敦煌着。夕刻近く鳴沙山、月牙泉へ。この砂漠地帯は昼夜の温度差が激しく、日中は砂が熱くてとても行かれないのだ。あおおすきそらくもゆうひ青々と澄み切った空には雲ひとつない。夕日を浴びながら金色に輝く鳴沙山の美しさにまがわすみ眩しさも忘れて見とれてしまった。ベージュの濃淡に分かれる砂丘は高い所では250mもあるそうだ。南北20kmに連なるこの山は、砂礫が堆積して出来た砂丘で強風に舞う砂の音が時には管弦の音に、また時には太鼓のように響くところからこの名が付けられたと聞いた。視線を転じると、三危山脈が荒涼とつながっていた。

此処から月牙泉まで駱駝に乗ることになった。短時間ではあるが馬には乗った経験があるものの駱駝は全く初めてだった。ましてや、この旅の前に勤務先の病院で駱駝の背から落ちて骨折した人の話を聞いてしまったので、慎重に人相ならぬ駱駝相の良いのを物



駱駝

色している
と、「どれで
も同じ、早く
乗って！」と
傍にいたあ

まり大人しくなさそうな駱駝に乗せられてしま
った。なにしろ鞍は無く、瘤の所に乗せた薄
い座布団様の敷物が鞍代わりで鑑すらない。
掴まる場所は所はといえば、鞍様布団の両
脇に添え木が固定してあって、それに渡して
ある金具なのだ。駱駝はゆっくり立ち上がり、
徐に歩き出すと思っていたが、跨ったと思
うや否や姿勢を正す間もなく折っていた前脚
が急に伸びたので、いきなり空中に放り揚げ
られ、そのまま地上に落ちるのではないかと
思ったほどだ。「一寸待って」と叫んだが、駱
駝は何処吹く風かと前について歩き出して
て、一行20人は古のキャラバン隊よろしく
列を成して月牙泉目指して行進した。

駱駝の背の揺れはひどく、深く上がり沈み
する上下動だ。鑑が無いのでぶら下がった
ままの足が駱駝のお腹を蹴るし、肩から下げ
ていたカメラも揺れるに任せて続けざまに所
選ばず当たるので、怒り出すのではないかと
わめいたが、駱駝引には「アンタが騒ぐ方がヤ
ツは怒るよ。大丈夫、力を抜いてリラックスし
て」と言われてしまった。月牙泉に着き、降り
た時には硬直状態で、しばらくは全身から
力が抜けていた。

月牙泉は鳴沙山の北麓にあり、三日月形を
した長さ200mの泉で、砂漠の中で2千年に

わたって水は枯れることなく湧き続けているそ
うだ。帰途湖水のような蜃気楼が現れた。そ
の昔砂漠を通過した人々は幻の湖を見
て渴きを潤すために駆け寄ったに違いない。

莫高窟見学

14日、今日は待ちに待った中国三大石窟
の一つである莫高窟が見られるのだ。少々
寝不足、疲れ気味ではあったけれども、高ぶ
る気持ちがそれを吹き飛ばしてくれた。莫高
窟は鳴沙山の麓の絶壁に、南北約1.8km
にわたる石窟群で千仏洞とも言われている。
4世紀半ば僧侶が夕日を浴びて輝く三危山
を前に千仏の威厳を感じ、石窟を築き修行し
たのが始まりだといわれている。その後約千
年にわたって彫り継がれた数は千を超えると
いうことだ。現在発掘されているのは、北魏か
ら最盛期の唐代を含めた元代までの492の
窟である。印度に起源をもつ石窟芸術はこ
の地で最も美しい花を咲かせたのだ。先ず
蜂の巣を思わせるような全貌が見えた。中央
の楼間は4世紀に建てられたもので、窟内に
は総面積4万5千㎡の極彩色の壁画と、2千5
百体の彩色塑像があるという。恐らく世界最
大の画廊であり、美術館であろう。係員が錠
を開け、人数制限をしながら窟内に導いてく



莫高窟前景

ぬす めす もの かずおお き
れる。盗まれてしまった物も数多くあると聞い
たが、私達^{わたしたち}は11の石窟^{せつくつ}を見ることが出来た^{できた}。

まず^まくつ ねん とき ぼっこうくつ じゆう
先^先ず17窟^{くつ}へ。1900年、時の莫高窟^{ねん とき ぼっこうくつ}の住
持^じが洞窟^{どうくつ}の中に更にこの17窟^{くつ}を発見^{はっけん}したの
だ。中には大量^{なかに}且つ貴重^{たいりょうか}な書画^{きちゆう}や経巻^{しよが}がぎ
っしり詰^なまっていたという。このことで敦煌^{きようかん}は
世界中^{なかに}の注目を集めることとなった。内部^{ちゆう}は
小さく3m四方^{ちい}、この小さな窟^{くつ}が別の大きな窟^{べつ おお くつ}
に至^{いた}る途中^{ちちゆう}に付属品^{ふぞくひん}のように付^ついていること
になる。小説^{しやうせつ}「敦煌^{とうんこう}」はこの洞窟^{どうくつ}を題材^{だいざい}にした
もので、映画^{えいが}にもなった。どの石窟^{せつくつ}も天井^{てんじゆう}
を見ればその年代^{ねんだい}が分かるそう^わだ。第130窟^{だい 130 くつ}は



天井(宋代)



天井(唐代)

とうだい げんだい しゆうふく きよだい
唐代^{とうだい}から現代^{げんだい}まで修復^{しゆうふく}されたことのない巨大^{きよだい}
な仏洞^{ぶつどう}だ。ここには高さ26mもある大きな
彌勒^{みらく}大仏^{だいはつ}の坐像^{ざざう}があったが、非常に均整^{ひじゆう きんせい}が
とれていて美^{うつく}しかった。第45窟^{だい 45 くつ}の唐代^{とうだい}に作^{つく}
られた7体の塑像^{たい そぞう}は最高傑作^{さいこうけっさく}といわれている。
菩薩^{ぼさつ}像^{ざう}は鼻筋^{はなすじ}が通り、形^{かたち}の良い三日月^{よ み かづきがた}形の
眉^{まゆ}、優しく穏やかな唇^{やさ おだ くちびる}
の線^{せん}、しなやかなウエスト
ライン等^{なごせいほう}西方^{せいほう}の影響^{えいぎやう}を受^う
けているのが見て取れる。
第158窟^{だい 158 くつ}の涅槃^{ねはん}仏^{ぶつ}は目^め
を半眼^{はんがん}に開^{ひら}いていて、ど
の角度^{かくど}から見ても顔^{かお}の



彌勒

ひようじゆう か だいたすう くつ そぞう ほとけ
表情^{ひようじゆう}は変わらない。大多数^{だいたすう}の窟^{くつ}の塑像^{そぞう}は仏
の姿^{すがた}で、又壁画^{またへき}は仏教故事^{ぶつぎやう}が描^{えが}かれている。
なにしろ石窟^{せつくつ}の中^{なか}には撮影禁止^{さつえいきんし}なので、脳内^{のうない}
カメラ^{おさ}に収^{けん}めなくてはならないのだ。見学^{けんがく}し終^お
わって改めて莫高窟^{あらた ぼっこうくつ}は悠久^{ゆうきゆう}の過去^{かこ}を秘^ひめた、
途轍^{とてつ}もなく大きい砂漠^{おお さばく}の仏教遺跡^{ぶつぎやう いせき}且つミュー
ジウム^{おも}だと思った。

ご ご ようかん ほうか だい けんがく ようかん こ
午後^{ごご}、陽関^{ようかん}、烽火台^{ほうか}を見学^{けんがく}した。陽関^{ようかん}は古
代シルクロード^{だい しるくろーど}の軍事^{ぐんじ}、通商上^{つうしやうじゆう}の重要関門^{じゆうようかんもん}
で、赤褐色^{せきかつしよく}の台地^{だいぢ}に烽火台^{ほうか}がある。かつて
としの都市^とのあつた場所^{ばしょ}から兵器^{へいき}や武器^{ぶき}などの遺^い
物^{ぶつ}が発見^{はっけん}され、「骨董砂漠^{こつどう さばく}」と呼ばれてきた。



砂漠に残る烽火台

あとぶどうが たの きと とちゆうえい
この後^{あと}葡萄狩^{ぶどうが}りを楽しみ帰途^{きと}につく途中^{とちゆうえい}映
画^{えい}「敦煌^{とうんこう}」のオープンセット跡^{あと}を車窓^{しやそう}から見た
が、中国^{ちゆうごく}の映画会社^{えいががいは}がいまだに使用^{しやう}している
そう^{そう}だ。

万里^{ばんり}の長城^{ちやうじゆうさいせい}最西端^{さいせいたん}—蘭州^{らんしゆう}—北京^{ぺきん}

にち ごぜん かよくかん む ちゆう みち とお
15日午前^{にち ごぜん}、嘉峪関^{かよくかん}へ向かう道^{みち}すがら、遠く
に白銀^{はくぎん}の峰^{みね}が連なる祁連山脈^{きれんざんみやく}が見えた。砂
漠^{さばく}の中でホッとするときである。明代^{みんだい}の万里^{ばんり}
の長城^{ちやうじゆうさいせい}最西端^{さいせいたん}の城跡^{じゆうせき}嘉峪関^{かよくかん}は、北京^{ぺきん}から4
千kmの所^{ところ}にある。三層^{さんそう}の城楼^{じゆうろう}から成^なって
て、南方^{なんぼう}のチベット族^{ぞく}の襲来^{しゆうらい}に備^{そな}えたものと
のこと。日干^{ひぼ}煉瓦^{れんが}で造^{つく}られた万里^{ばんり}の長城^{ちやうじゆう}は、
げんけい とど ぐず おお ぶぶん
原型^{げんけい}を留^{とど}めぬほどに崩^{ぐず}れ落^おちている部分^{ぶぶん}も



嘉峪関



砂漠に残る三層の城楼

あった。城跡に立った時、ふと中国語の教科書で学んだ「孟姜女」の物語を思い出した。長城の建設には否応なしに一般男性が狩り出され、数知れぬ犠牲者を出したのだ。此处にも彼等の魂が眠っているのかも知れない。

5時半初めて乗るプロペラ機でこわごわ蘭州に飛んだ。蘭州は甘粛省の首都で、黄河を挟んだ東西40kmの細長い町で、かつてシルクロードの中継地として栄えた所だが、今では化学コンビナートの煙突が林立する工業都市となっていた。

16日、五泉公園、白塔山公園へ。五泉公園は漢代の将軍が匈奴征伐の途中飲み水に困り、剣を刺すと五つの泉が湧いてきたという伝説のある公園だ。明代の鉄鐘、銅仏、宋代の楼閣があった。白塔山公園には、明代創建の寺院と七層の白塔が建っている。山の頂上から見下ろすと眼下に村全体が見渡せた。この界限には回族が多い。あちこちに羊の肉がぶら下がっていて、注文に応じ

削ぎながら売っていた。蘭州人は「白塔山に登らなければ好漢にはなれない」と言うが、北京の人は「長城に登らなければ好漢にはなれない」と言っている。

観光名所には近頃中国でも滅多にお目にかからない物乞いが大勢いた。国家の福祉が行き届いていないのか、借りた子供を連れたい者がいるらしく、昔よく耳にした「三日乞食をしたら止められない」のか、ガイドに聞いてみたが分からなかった。この日蘭州には日本語の分かるガイドがおらず、英語圏向けのガイドが現地ガイドに当たった。スルーガイドと二重通訳の形になり面白かった。夕刻北京着。

17日、三年振りに訪れた中国のシンボル天安门は相変わらず賑やかで、故宮を見学する人は中国内外を問わず以前よりずっと多くなっているようだ。500年もの間皇城だった紫禁城が現在の故宮である。「末代皇帝」の映画の中で、ラストエンペラー溥儀がテニスに興じているシーンが頭をよぎり、球音が聞こえてくるような気がした。

最後は湖、山を背景に美しい楼閣や亭が点在する北海公園へ。清代に建立されたラマ教の仏塔は白塔と呼ばれている。此处で中国最後の食事を宮廷料理で締めくくった。

何年も前(1991年)の旅日記だが、今でも折に触れ思い出す。多くの貴重な文化遺産が消えることなく永遠に受け継がれていって欲しいと願っている。(横浜教室・ボランティア)

無錫でやっている日本語指導

む しゃく
向江 裕行



おな にほん ご しどう
同じ日本語の指導といっ
も、その目的によって、指導
の内容や方法が大きく違いま
す。ユッカの会の指導が、多
くは生活上必要な日本語や日本の社会、習
慣などを教えるのに対して、こちらでは、
「日本語能力試験」の受験指導が主体です。
もちろん研修で日本の会社へ行く人のた
めに日本の社会や習慣を教えたり日常会話
の指導などもあります。大多数は受験指導
です。そのせいもあるのと、また、中国での
外国語指導一般の特徴でもあるのですが、
教師・学生とも文法を大変重視します。「はじ
めに文法ありき」といった感じ

したがって、指導上のポイントといってもい
ろいろと違うところが多いのですが、今回は、
比較的共同の課題である「聞き取り」「発音」
について若干書いてみることにします。

ご承知のとおり、外国人の日本語の発音
や聞き取りは、彼らの母語の影響を強く受け
ます。

(母語の影響は文法の面でも現れますが、
これについては今回は割愛します。)

中国人の場合、母音の発声の問題のほか、
指導時に必ずと言っていいほど現れるのは、
「清音と濁音の混同」、「撥音、長音、促音、

などの不完全さ」でしょう。ほかにも問題はある
りますが、この二つは最も代表的なものなの
で、これについて少し触れて見たいと思いま
す。

1. 清音と濁音の混同について

(1) 混同の特徴

清音と濁音と言っても、中国人ではカ行と
ガ行、タ行とダ行の混同が特に問題で、サ
行とザ行、ハ行とバ行は問題ないのがふつ
うです。ただ、バ行とパ行との混同もあること
はあるのですが、パ行の音がある言葉が少
ないせいかあまり気づきません。

また、この混同は、「清音が濁音になる」、
つまり、「あかるい」が「あがるい」に、「あなた
は」が「あなだは」になる、といったケースがほ
とんどです。その反対、濁音が清音になるこ
とはあまりない、というか全然ないかもしれま
せん。

そして、混同しやすい清音－濁音はいず
れも「破裂音」です。

(2) 混同の原因

これには原因が三つあるようです。第一は
日本語と中国語の発音体系の違い、第二は
日本人自身の発音の崩れ、第三は中国に
おける中国人日本語教師の指導の実情の
問題です。

われわれが指導するにあたって、第一・第二の問題は根本的なことなのでさらに詳しくお話しますが、三つ目の問題はご存じない方も多いと思うので簡単に触れておきます。

中国の日本語教師は中国人のほうが圧倒的に多く日本人は少数です。特に入門段階を指導するのはほとんどが中国人です。ですから、「初体験」の段階で受けた中国人教師の指導があとからの学習に大きな影響を残します。

で、この段階で中国人教師が指導する清音と濁音の区別が、どうもすでに間違えているようなのです。私の周辺にいる数人の学生(他校で中国人教師から指導を受けたことのある)に聞いたところ、ほとんど全員が次のように言いました。

「当時の先生の発音は、語頭の清音は清音だったが、語中の清音は濁音だった。」

「先生は、語頭は清音だが語中は濁音でいい、と言った。」

というわけで、中国人教師の指導にも問題はああるようです。

(3) 具体的な指導方法

それを知ったうえで、指導についての結論を先に書くと、清音-濁音の混同の修正には、先生の発音を真似させているだけではだめで、あえて清音の特徴を強調するようにして練習させることが必要だと思ひます。もちろんこれは、はじめのうちは少し不自然だけれ

ど、学習が進むにつれて次第に自然になってくるようです。

この場合気をつけなければならないのが第二の問題なのです。

わたしたちの発音は、ゆっくり話すときは一音一音を明確に出しますが、ふつうの速さになるとその一音一音はかなり崩れてきます。英語の例をあげれば、「water」は、ゆっくり言えば「ウォーター」のように聞こえますが、ふつうの速さでは「ウァラ」みたいに聞こえます。これと同じで、自分が清音を出しているつもりでも、精密に分析すると、濁音に近い、中国語の無気音と同じような音になっていることが多いものです。

(このあたりは、日本語教育能力検定試験の「試験Ⅱ」のような「音声の聞き分け」をやつてごらんになるとお分かりになると思ひます。)

有気音と無気音の聞き分けになれた中国人はこれを敏感に感じとり、「ああ、先生の出している音は無気音だ。」と思つてそれを真似します。それがわたしたちの耳に濁音として聞こえてしまう、ということのように思ひます。

したがって、修正のはじめの段階では、語中の清音を中国語の有気音のように少し気音を出す感じで指導するといひようです。これだと、はじめのうちはたしかに少し不自然ですが、学習が進み語彙も増えて語速も早くなる段階では、彼らも、たとえば「いま聞こえた“あなた”というのは“あなた”のことだ。」と

おも ほうおん し ぜん
思うようになり、発音もだんだん自然なもの
なっていくます。

2・「撥音、長音、促音などの不完全さ」について

(1) その特徴

みなさんご承知のとおり、これらはいずれも
その音の特徴部分(「ん」「ー」「っ」)の欠落あ
るいは時間的短縮となって現れます。

(2) その原因

中国語では、促音を除いては日本語のこ
れらと同じような発音があるのですが、なぜか
不完全になります。これはつまるところリズム
感の問題だと思えます。もちろん、中国語で
もリズムはあるのですが、複数の音節で構成
される一つ一つの文字(漢字)単位のリズム
で、しかもきわめて柔軟ですから、日本語の
ような単音節の集まりのリズムには慣れてい
ないようです。

(3) 具体的な指導方法

みなさんもなさっておいででしようが、リズム
感をつかませるのには手をたたきながら発音
の練習をするように、身体の動作を使った方
法が有効です。歌を歌うとき、自然に体がリ
ズムに乗って動くように、言葉の練習でも身
体を使うことはいろいろな面で効果をあげる
ことができます。

ただ、その身体の動作も、単に「が・っ・こ・
お」と4拍たたきただけでなく、速さを変えて「が
っ・こお」と2拍にしたり、ちょうど合唱の指揮
をするように大きく腕を振らせたりして、いろ

いろな変化をつけることはとても大切です。

たとえば「病院」という言葉を練習するとき、
まず「びよ・お・い・ん」と一拍ずつ手をたたく。
次に、「びよお・いん」と2拍にする。その次に、
右手で指揮をするように「びよ」で右上から中
下へ、「お」で中下から左上へ、「い」で左上
から中下へ、「ん」で中下～右上へ、という具
合にやる。さらには、アクセントのイメージもつ
かませるために、手を「びよういん」の言葉に
合わせて下から上へ半円を描くように動かす、
などといった方法を組み合わせます。(この
動きをもっと体系的に取り入れたのが“VT
法”ですが)

以上こちらでわたしが気づき、あるいはやっ
ている方法をご紹介します。このほかいろいろ
な工夫があると思えます。もし、みなさんがな
さっておいででの指導で効果がある方法があり
ましたら、ぜひお聞かせいただくと助かりま
す。よろしくおねがいします。(2005年12月)

向江裕行さんは、中国の無錫市にある日本語学校で
2005年3月から日本語指導をしていらっしゃいます。

ユッカの会では中国人学習者がおおぜい日本語を学
んでいるので、今回は特に中国人に日本語指導をする
上で大切なことを書いていただきました。(宮入靖夫)



60年の歳月と これから……

なか かず こ
中 和子



2005年のカレンダーも12月の

1枚を残すだけになりました。毎日、国の内外、心痛む映像がテレビ画面に映し出されます。多発するテロ、そこに映し出される子どもの姿とユッカの会で日本語を学ぶ帰国者の姿が重なります。

戦後60年、今も残る戦争の傷跡……鎖は断ち切れないというのが、この活動に関わつての実感です。補習教室で高校入試に挑む子どもたち、孫に当たるその子どもたちと同居しない(できない)帰国一世の方々……。ユッカの会で長い年月、共に歩んだからこそ『気づき』、一つ一つ丁寧に対応し、よりよ

い明日につなげたいと願います。

◆補習教室

2005年4月小学生9名、中学生25名、(内ひとり中国に帰国)、大学生5人が進学しました。そして今、12月、海外で、すでに中学過程を終了し、来日、高校受験を希望する子どもたちの増加に戸惑いながら、間近に迫る高校受験への対応が続いています。また、最近、補習教室に参加する高校生が増え、高校生への対応が課題になってきました。

教室活動としては平塚農業高校の田中雅彦先生のご協力を得て、普段なかなか取り組

めない理科の実験を春休みに実施しました。

夏にはユッカの会主催のキャンプ、その企画運営に高校生が参加し、2泊3日のキャンプを楽しみました。リーダーとしての役割を果たそうとがんばる高校生の姿、ボランティアにとつては子ども再発見の時でもありました。すでに、高校生たちは「来年のキャンプは……」とリーダー役を自覚し、次回のキャンプについて考えてくれているようです。頼もしい成長振りです。

全国津々浦々、日本語が母語でない子どもたちへの支援の輪が広がっています。外国籍子どもサポートの会(岩手県、宮城県、山形県、福島県内のボランティア団体)の田所さんから、ユッカの会補習教室の見学申し込みがあり、6月4日、午前は補習教室見学、昼食後は5時過ぎまで、熱心な意見交換が行われました。港中学校の高橋校長先生はじめ、横浜市内の補習教室関係者、そして、ユッカの会の子どもたち、ボランティアの方々が協力してくださいました。

ユッカの会の補習教室を見学いただき、外国人子どもサポートの会の方々に補習教室のあり方について前向きなメッセージを送ることができたように思います。その後この地方では外国籍子ども支援のネットワークができ、着々と成果を挙げているようです。ユッカの会が微力ながらもお手伝いできたことはうれしいことです。これからも他団体との連携を大切にしていきたいと思っています。

◆日本語教室

市内では日本語教室の学習者が減っている傾向の中で、ユッカの会は相変わらず学習者の待機状態が続いています。コーディネーターの仕事の大変さは想像以上と思いますが、コーディネーターがうまくいっていることが人気の秘密かと思われれます。ユッカの会では組織として、ボランティアの研修機会を作っていますが、各自が研修の機会を得て、自ら学んでいる方が多いようです。そういう方々によってユッカの会の日本語教室が成り立っていること、ここが活動の要なのでしょうか。

◆パソコン教室

パソコン教室は毎週、土曜日開催され、Eメールの送受信やカードづくりを楽しんでいます。ここでは自分が学びたいことを丁寧に教えてもらえることが魅力のようです。

今、日常生活はパソコンを使えたほうが便利な社会に向かっていて、情報弱者という言葉が気になる時代です。そこで帰国者一世の方々を対象に神奈川県社会福祉協議会との協働事業として、ITサロン「中国帰国者パソコン教室」を開催しています。

ここでは、ITサロンの渡辺さんの指導の下、パソコンができる帰国者の中山さんが中国語を生かし協力しています。地域教室の10名が毎週木曜日の午後県民センター14階の教室に集います。インターネット、Eメールの送受信、ワードと学習が進み、12月に入っ

てエクセルに挑戦しています。12月8日には

各人思い思いの年賀状が完成しました。

NPO法人 e-Nakamaから5台のノートパソコンの寄付をいただきました。これはひとえにITサロン担当の渡辺さんのご尽力によるものです。ありがとうございます。いただいたパソコンは自宅練習用に持ち帰ったり、パソコン教室で使用したりと、フル回転しています。

◆地域教室

地域教室は戸塚、横浜共に盛況です。男性中心のクラスが誕生したり、回数を増やしたり、工夫がなされていますが、3年目を迎えるにあたり、教室のあり方の検討が急がれます。12月15日第一回検討会を持ちます。

戦後60年、節目の年、6月読売新聞社の取材申し込みについて、帰国者から取材拒否発言がありました。「話し合いの場」を設け、取材について納得いくまで話し合ったことは、その後の活動にプラスしたように思います。

また、ホームヘルパー2級資格を取得し、ボランティア活動をはじめの方、太極拳のグループを作ろうと話合いが行われたり、教室メンバーで団体旅行をしようと声掛けをする方々、自主活動が盛んになってきました。

◆手芸の会

手芸の会では今年度も飯田さんとそのお友達がご協力くださり、アヒルの石鹸カバーづくりに挑戦しました。毎年、材料の準備から当日の指導まで・・・飯田さんのお仲間感謝です。

補習教室、日本語教室、パソコン教室、地域教室の通年活動に加え、手芸の会や、様々なイベントが行われました。それらの活動を資金面で支えてくださった残留孤児援護基金、神奈川県社会福祉協議会、神奈川県新聞厚生文化事業団、横浜市市民局、全桃泳さんに心から感謝いたします。

一週間後には恒例のクリスマス会、今年は200枚近い前売り券が出ています。チケットを手渡した方々のお顔を思い出しながら・・・クリスマス会の準備をしましょう。

平成17年度の活動報告

＜教室活動＞

1. 補習教室:通年 主にマンツーマン形式
 - ・卒業を祝う会 3月31日 かながわ県民活動サポートセンター
 - ・春の教室(理科実験教室)3月31日、4月1日 かながわ県民活動サポートセンター
 - ・夏の教室 8月14日、15日 県民センター
 - ・冬の教室 12月22日(科学実験教室)、12月23日 予定 県民センター
 - ・キャンプ 8月5日～7日 南伊豆臨海学園(8月20日 反省会)
2. 日本語教室 通年 主にマンツーマン形式、平均週1回の日本語指導

ボランティア確保について
3. パソコン教室 通年 週一回を基本的に個人指導 実施曜日:土曜日
 - ・ボランティアのためのパソコン教室/カードづくり

4. フリーターキング・手芸の会
 - アヒルの石鹸カバー作成 8月25日 かながわ県民活動サポートセンター
5. 地域教室
 - ・日本語教室実施:戸塚教室、横浜教室
 - ・料理教室:1月13日(新年会) 男女共同参画センター横浜
 - ・バス見学会 3月3日 江ノ島水族館見学
 - ・ITサロン 4月14日からスタート(ノートパソコン5台寄付)
 - ・毎日放送取材 4月14日(中井さん)
 - ・料理教室(日本料理) 6月24日(リサイクルコーナーを設けました)
 - ・読売新聞取材 8月10日(地域教室)
 - ・バスハイク富士山五合目 9月8日
 - ・ビール工場見学 10月5日(戸塚教室)
 - ・料理教室(日本料理) 11月18日
- ＜交流会活動＞
 - ・成人を祝う会 1月16日 かながわ県民活動サポートセンター
 - ・餃子の会 2月20日 アースプラザ
 - ・お花見 4月7日 柏尾川岸
 - ・料理教室 5月23日 男女共同参画センター横浜(タイ料理)
 - ・バーベキュー会 5月29日 子ども自然公園
 - ・浴衣を着る会 7月29日 男女共同参画センター横浜
 - ・バスハイキング 10月30日 地球博物館とみやがせ宮が瀬ダム
 - ・クリスマス会 12月17日 サンライフ横浜

<ボランティア自主研究活動>

- ・ボランティア集会 3月5日 男女共同参画センター横浜
- ・日本語勉強会 毎月第3土曜日 日本語指導について自主研究
- ・「県招致の研修生を囲んで」2005年1月21日予定 ピラキッドさん(タイ)、郭麗華さん(中国)

<地域への参加・他団体との交流・研修>

- ・補習教室見学と意見交換会(協力:ディペスの会、後援:神奈川県ボランティアセンター) 6月4日
- ・日本語教育大会(文化庁主催) 8月3日、4日
- ・港 中学校学校授業参観 5月14日
- ・アースフェスタ参加(お茶コーナー、餃子販売) 5月14日、15日
- ・市民活動フェア参加(スピーチ会) 4月17日
- ・かながわ県民活動サポートセンター協議会、かながわ県民活動サポートセンター関連行事への参加
- ・サポセン利用者ミーティング 5月24日、7月7日、9月25日
- ・サポートセンター大掃除 7月17日、12月日
- ・日本語教育に関する研修講座/外国人児童生徒の学習支援に関する研修講座

<協働事業>

- ・神奈川県社会福祉協議会との協働事業: ITサロン(帰国者のパソコン教室)
- ・神奈川県との協働事業: 中国残留孤児対象「日本語教室」

<事務局>

- ・連絡会 5月28日、12月5日 かながわ県民活動サポートセンター
- ・現況調査 5月
- ・通信24号(6月)、25号(9月)発行
- ・たより17号 12月17日 発行予定
- ・助成金: 残留孤児援護基金/神奈川県社会福祉協議会/横浜市市民局/神奈川県厚生文化事業団
- ※かながわ県民活動サポートセンター会議室利用登録手続き担当: 中村明子さん

<その他>

- ・受賞
- ・横浜ライオンズクラブ 林 麗民さん(ユッカの会の活動に協力)
- ・栄区社会福祉協議会感謝状
- ・委員
- ・「かながわ民際協力基金」審査委員会
- ・文化庁委託「日本語ボランティア活動支援・推進事業」委員会
- ・サポートセンター利用者協議会
- (ユッカの会 事務局長)

